

平成28年度

小学生名寄自然体験交流事業報告書



杉並区次世代育成基金活用事業

杉並区教育委員会事務局 生涯学習推進課

目次

- 01 名寄自然体験交流事業を終えて
杉並区教育委員会 教育長 井出 隆安
名寄市教育委員会 教育長 小野 浩一
- 02 小学生名寄自然体験交流事業の概要
- 04 名寄自然体験交流マップ
- 05 写真でふりかえる交流事業
- 11 派遣児童の作文・作品
- 36 名寄自然体験交流事業によせて
杉並区立永福小学校 校長 岩崎 義宣
- 37 保護者の感想と引率の先生からのメッセージ

児童が宿泊したコテージ
平成 28 年 12 月 28 日 午前 6 時

名寄自然体験交流を終えて

杉並区教育委員会 教育長 井出 隆安

杉並区では、子ども達が夢を持って、自らの道を拓く人として成長していくことを願い、平成 24 年 4 月に「杉並区次世代育成基金」を創設しました。小学生名寄自然体験交流事業はこの基金を活用した事業として始められ、今回で 5 回目となりました。

11 月に結団式と第 1 回事前学習会を行ってから 12 月の派遣当日までの間には、北海道各地で記録的な寒さや降雪が続いているというニュースが幾度も伝えられました。出発の直前も日本列島は強い寒気に覆われ、北海道では 50 年ぶりの大雪となり、子どもたちも期待と不安の入り交った気持ちで当日を迎えたのではないのでしょうか。

派遣期間中は、幸いにも屋外での活動中は天候に恵まれ、比較的晴天の中で交流体験ができましたが、バスでの移動は吹雪の中を進む場面も多く、また、最終日には氷点下 20℃を下回る気温の朝を迎え、子ども達はまさに北海道の冬を体感できました。「痛い」と感じるほどの厳しい寒さも、名寄の方々との温かさとともに、子ども達の心に素晴らしい体験として刻まれたことと思います。

本事業の目的は、交流自治体である名寄市の豊かで厳しい自然を体感するとともに、国内最大級の望遠鏡での観測等の体験や地元の子供達との交流を通じて、科学への知的好奇心や豊かな人間性を育むことにあります。参加した子ども達一人ひとりの表情を見ましても、この目的は達成できたと確信いたします。学習成果発表会では、児童が実際に体験してきたことをそれぞれ個性のある内容で発表し、その成長を十分に感じる事ができました。また、各所属校でも発表を行うなど、自らの経験を広く伝えていくという意識の高まりも見られ、意義のある取組であったと大変嬉しく思いました。

本事業の実施にあたりましては、名寄市の加藤剛士市長をはじめ、多くの皆様に多大なるご尽力をいただきました。心から感謝申し上げます。また、次世代育成基金の趣旨にご賛同、ご支援をいただきました皆様、本当にありがとうございました。



名寄市教育委員会 教育長 小野 浩一

名寄市で実施されました「小学生名寄自然体験交流」が、本年度も無事終了しました事を心からお喜び申し上げます。

実施にあたりましては、準備をいただきました関係者の皆様、子どもたちを送り出した保護者の皆様に敬意を表します。

今年は 10 月下旬に初雪を観測した後も、気温の低い日が続き、現在に至るまで北海道各地で記録的な寒さ・降雪を記録しました。とくに今回の滞在期間中には、マイナス 20℃以下の気温となり、まさに雪国の寒さを体感していただけたものと思います。気温のほかは皆さんの熱意が天候に味方し、天体観測もでき、活動が順調に推移した事も嬉しい思い出となりました。

参加された杉並区の子供たちには、北国博物館で名寄の子供たちと対面して班ごとにスノーシュートレッキング、アイスクリーム作り、ソリ遊びで交流し、その後、カーリング、天体観測などで名寄の寒さと雪を体験していただきました。

学習成果発表会では、普段とは違った環境の中で過ごした体験を基に、北海道の冬の自然や生活、動物などについて子どもたちの目線で捉えてしっかりとした内容にまとめ上げ、立派に発表されている姿に感動いたしました。「また名寄市に行ってみよう」、「杉並区のことを教えてあげたい」という感想もあり、受入側にとっても嬉しい発表会でした。

本事業は、「杉並区次世代育成基金」を活用して、次世代を担う子どもたちが様々な体験・交流を経て、夢を描き、その夢に向かって健やかに成長できる取組みを支援する事業と聞いておりますが、名寄市の子供たちにとっても思い出に残る経験であったと思います。名寄市での体験と交流が、本事業の目的に少しでも寄与できますよう、今後とも受入に最大の努力をしていきたいと考えております。

結びに、本事業を通じて杉並区と名寄市の交流と相互理解がますます深まることをご期待申し上げますとともに、再び名寄市で皆様とお会いできますことを祈念し、ご挨拶いたします。



平成 28 年度「小学生名寄自然体験交流事業」の概要

1. 目的

この事業は、杉並区次世代育成基金を活用して、区内児童を交流自治体である名寄市に派遣し、厳しい寒さと豊かな自然との触れあいや、国内最大級の望遠鏡による観測等の体験、さらには地元の子どもたちとの交流などを通じて、自然の雄大さや大切さに気付き、さらに文化や産業の違いと良さを認め合う態度など、児童の知的好奇心や、豊かな人間性を育むことを目的としています。

2. 事業のスケジュール

11月 7日(月)	事前学習会(第1回)、結団式・保護者説明会
11月 27日(日)	事前学習会(第2回)、インターネット交流、OB・OGとの交流
12月 11日(日)	事前学習会(第3回)、保護者説明会
12月 26日(月)～28日(水)	名寄市で自然体験交流
1月 12日(木)	学習相談会
2月 5日(日)	学習成果発表会、インターネット中継

3. 派遣児童名簿 (学習・行動班別)

班	氏名	学校・学年	班	氏名	学校・学年
1班	前田 葉介	桃井第四小学校 6年	4班	岩崎 緋李	富士見丘小学校 6年
	江田 和奏	桃井第五小学校 5年		名城 薫	天沼小学校 5年
	中井 環	杉並第六小学校 5年		島野 広大	桃井第三小学校 5年
	齋藤 幸菜	三谷小学校 5年		向井 春花	荻窪小学校 5年
2班	磯川 颯斗	天沼小学校 5年	5班	徳増 歩己	高井戸小学校 6年
	平入 来実	杓掛小学校 6年		藤川 愛佳	馬橋小学校 6年
	松田 大河	三谷小学校 5年		高野 琢磨	高井戸東小学校 5年
	間宮 章智	杉並第三小学校 5年		安達 世真	桃井第五小学校 5年
3班	前島 ゆずゆ	高井戸第三小学校 5年	6班	宮崎 祐希	杓掛小学校 6年
	山崎 大	桃井第四小学校 6年		小川 なつみ	杉並第二小学校 6年
	浅野 隼輝	新泉和泉小学校 6年		田中 こみち	四宮小学校 5年
	久田 悠未	方南小学校 6年		上野 結衣	八成小学校 5年
	檜垣 咲良	雙葉小学校 5年			

4. 引率者

久保田 福美	教育委員会教育委員	齋木 雅之	生涯学習スポーツ担当部長
岩崎 義宣	永福小学校 校長	佐藤 正明	済美教育センター 統括指導主事
茂呂 みゆき	杉並第四小学校 副校長	勝呂 創太	済美教育センター 准指導主事
濱元 雅俊	西田小学校 主任教諭	永田 量子	桃井第四小学校 主任教諭
田中 安奈	済美小学校 教諭	佐藤 祐子	桃井第二小学校 養護教諭
岸本 彩	生涯学習推進課管理係 主査	向坂 登志子	生涯学習推進課 社会教育センター
向後 正樹	生涯学習推進課管理係	※この他、看護師 1名	

5. 学習指導者

鈴木 知徳	杉並第一小学校 (前年度引率)	校長
小山 浩	済美教育センター (交流中継支援)	理科教育指導担当

小学生名寄自然体験交流事業 (H28年度) 行程表

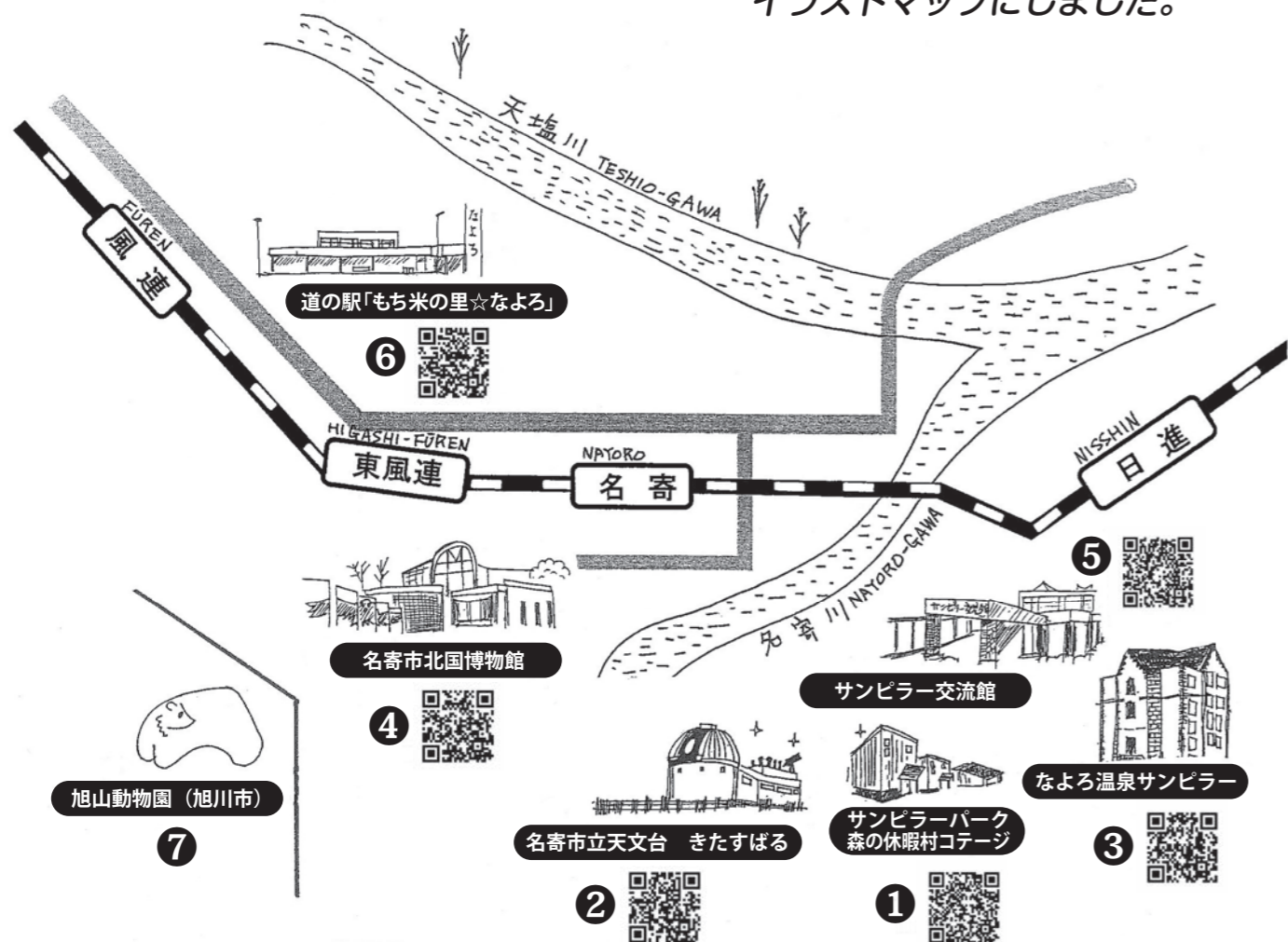
時間	1日目 [12月26日(月)]		2日目 [12月27日(火)]		3日目 [12月28日(水)]	
	天気 曇り時々 雪	最高気温 + 0.6℃ 最低気温 - 4℃	天気 曇り時々 雪	最高気温 - 3.1℃ 最低気温 - 14.4℃	天気 曇り時々 晴れ	最高気温 - 6.5℃ 最低気温 - 22.7℃
6			6:00	起床	6:00	起床
					6:55	コテージ発
7	7:30	児童集合	7:10	コテージ発	7:05	なよろ温泉着(朝食) ③
	7:45	出発式	7:20	なよろ温泉着(朝食) ③		
8	8:00	杉並区役所発	8:15	なよろ温泉発	8:00	見送り式
			8:30	北国博物館着 ④	8:15	なよろ温泉発
9	9:45	羽田空港着	9:00	対面式	8:30	もち米の里「なよろ」着 ⑥
10				スノーシュー トレッキング &宝探し	9:00	もち米の里「なよろ」発
					10:30	旭山動物園着
11	11:15	羽田空港発 (JAL553便)		アイスクリーム作り		グループ行動 ⑦
		昼食(機内)				
12	12:55	旭川空港着	12:15	昼食(豚汁給食)		昼食(園内)
13	13:30	旭川空港発		雪あそび		
14			14:00 14:15 14:30	名寄児童とお別れ式 博物館発 交流館着		
					14:30	旭山動物園発
15	15:40	休暇村コテージ着 ①		カーリング ⑤	15:00	旭川空港着
					15:55	旭川空港発 (JAL556便)
16	16:30	きたすばる着 ②		天体観測 ②		
		プラネタリウム鑑賞				
17	17:50	きたすばる発	17:00	きたすばる発	17:55	羽田空港着
18	18:00	なよろ温泉着 ③ 入浴	18:00	なよろ温泉着 ③ 入浴	18:30	羽田空港発
19	19:00	夕食	19:00	夕食	19:30	杉並区役所着
	19:45	なよろ温泉発	19:45	なよろ温泉発	19:45	到着式
20	20:00	コテージ着 ①	20:00	コテージ着 ①	20:00	解散
	21:30	就寝	21:30	就寝		

①～⑦の番号は、4ページのイラストマップで場所を示しています。

名寄自然体験 交流マップ



派遣期間中に、皆の自然体験、交流体験の舞台となった名寄をイラストマップにしました。



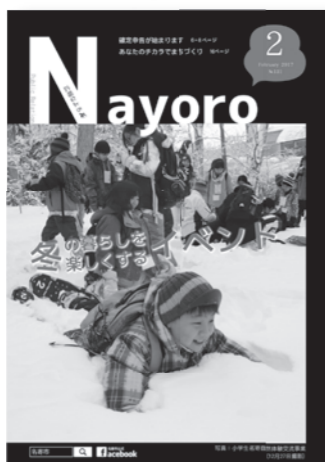
広報なよろ 2月号



名寄市公式サイト



名寄市の広報から



12/26-28 杉並区の子どもたちが名寄の冬を体験



「小学生自然体験交流事業」として今年も杉並区の小学生25人が名寄市にやってきました。27日には北国博物館で市内小学生17人と合流し、冬の森を探検したり雪を使ったアイスづくりを行いました。

広報なよろ平成29年2月号

第1回 事前学習会 平成28年11月7日(月)



第2回 事前学習会 平成28年11月27日(日)



第3回 事前学習会 平成28年12月11日(日)

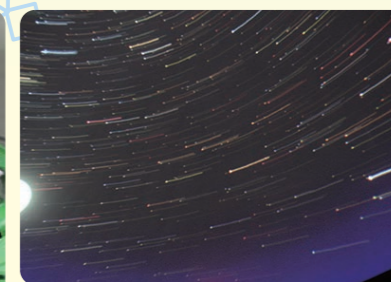
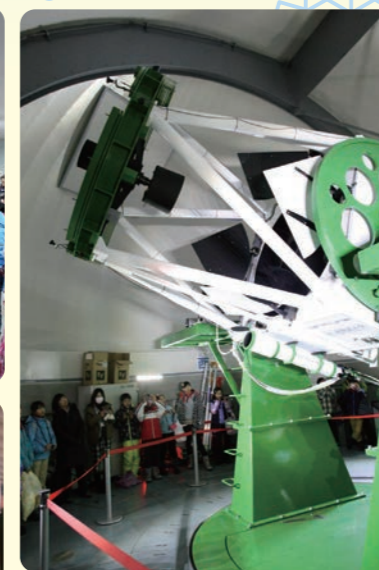


名寄の気候や農作物、文化、歴史などさまざまなことを学ぶ3回の学習会は、それぞれ特色を持っています。第1回事前学習会の特色はレクリエーションを取り入れたこと。派遣児童たちが打ち解けあうきっかけを作ります。第2回事前学習会では名寄市とのインターネット中継とOBOGとの交流が特色。12月に出会う児童の皆さんと一足早く映像と音声で交流をし、さらに先輩児童から自分の学習の進め方などを教えてもらいます。第3回の事前学習会では、グループでの自由行動の計画を立てるなど、自主・自立の精神も養います。



名寄派遣 第1日目

区役所での出発式



名寄市立天文台でのプラネタリウムと、天文台長の解説。



コテージでは氷のランタン & なよろろうが出迎えてくれました。



名寄派遣 第2日目



名寄市北国博物館では、「名寄の気候・地形・動植物について」や、「大昔から現在までの人々の生活について」の展示を前に、館長をはじめ、学芸員の方々から多くのことを学びました。



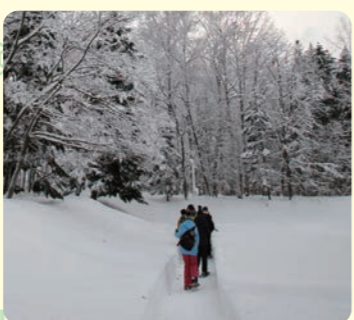
名寄のみなさんと対面式



北国博物館での調べ学習のあとは名寄市の児童との対面式。このあとすぐにスノーシューを履いて原野の中に飛び出すスノーシュートレッキングを体験しました。日本自然保護協会から自然観察指導員の方々が同行し、雪の上をみんなで歩きながら、林の中で暮らす生き物たちや木々の様子、北海道の雪の特徴など、大自然の驚異を丁寧な説明で教えていただきました。



スノーシュートレッキング



アイスクリーム作り



雪あそびの様子



名寄の児童との記念撮影



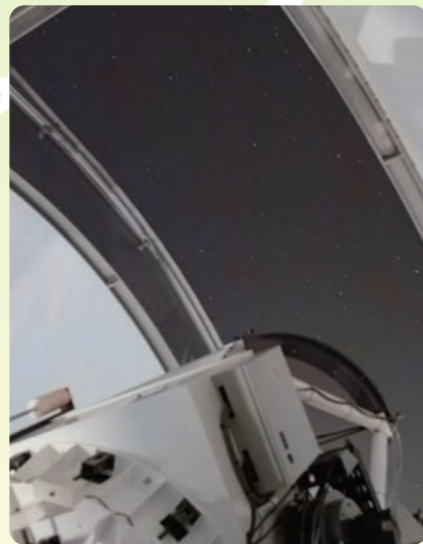
一緒に学び、遊んだ名寄の児童たちと握手でお別れ。



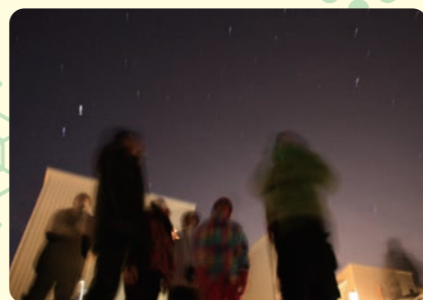
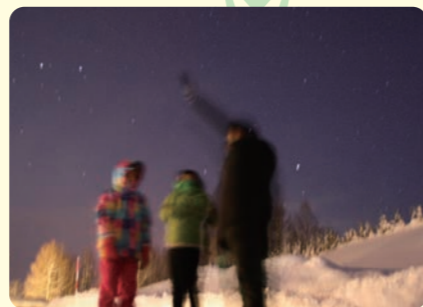
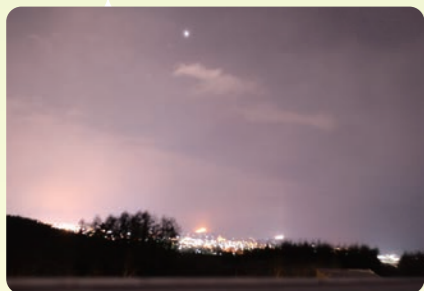


カーリング体験は、コーチの丁寧な指導のもと、全くの初心者でも、簡単なゲームを楽しめるところまで上達しました。体を動かしながら地元の方々と触れ合い、貴重な体験となりました。

天文台ドームが開き、ビリカ望遠鏡が星をとらえます。



夜はきたすばるでの天体観測。晴れた夜空に光る星を日本最大級の望遠鏡「ビリカ」で眺めたことや、夜明け前に行われた天文台長による星座の解説も、忘れがたい体験です。



名寄派遣 第3日目

名寄の方々による見送り式の様子



交流体験を終えた児童たちに、名寄市の方々が暖かい見送りの言葉をくださいました。名寄市での体験の様子は、名寄新聞に取材され、スノーシュートレッキングの様子を撮影した写真と記事が、28日の最終日の朝刊の一面を飾りました。



旭山動物園では、班ごとに自分たちで考えたルートで行動し、見学をしました。

各班の見学中の一コマ





参加児童の作文・作品

学校名	桃井第四小学校	氏名	前田 葉介
-----	---------	----	-------

マイナスの世界

みなさんは「ダイヤモンドダスト」を知っていますか。ダイヤモンドダストとは、空気中の水蒸気が一気に凍って氷の結晶となり、太陽の光に反射しながらキラキラ輝いて舞い落ちることです。とてもめずらしい現象で、いくつかの条件が必要です。①よく晴れた朝、②気温がマイナス10度以下、③程よい湿度、④風がない、⑤空気がすみきっている、これら全ての条件がそろわなければいけません。日本では、北海道の名寄や旭川などが、よく観測される場所として有名です。

12月26日から三日間、ぼくはこの名寄市に行ってきました。夜は天文台きたすばるで天体観測をする予定でしたが、一日目は天気が悪く、二日目は観測できましたが、少しくもっていました。天文台長さんが、夜中から晴れると教えてくださいましたので、ぼくたちは三日目の朝5時に起きて外に出してみました。気温はマイナス23度！晴れていて星空がとてもきれいでした。名寄は杉並と違い、星の光をじゃまする光が少なく、空気がきれいなので、夜空をはみ出すほどの満天の星でした。もしかしたらダイヤモンドダストが見られるかもと期待しましたが、観測できませんでした。

他にも色々な体験をしました。マイナス20度というと、家の冷凍庫くらいの温度です。ぬれたタオルを振り回すと、すぐにカチカチに凍ります。また、コップに水を入れて一晩置いて取り出すと、きれいに氷のコップができたり、ペットボトルに牛乳と砂糖を入れて振るとアイスクリームが作れたりします。

雪の発見もありました。名寄の子たちと雪合戦で盛り上がったのですが、名寄の雪は杉並の雪より雪玉を作るのが難しいのです。これは、雪質がサラサラと軽いパウダースノーなので、水分が少なく固まりにくいからです。

このように極寒の地でたくさんの体験ができました。ダイヤモンドダストは見られませんでした。初めての寒さ、初めての景色、初めての自然現象。初めてづくしのしばれる三日「寒」でした。

学習成果発表会 平成29年2月5日(日)：セッション杉並ホール



発表の様子



作品は、セッション杉並のロビーに展示され、多くの方々に見ていただきました。



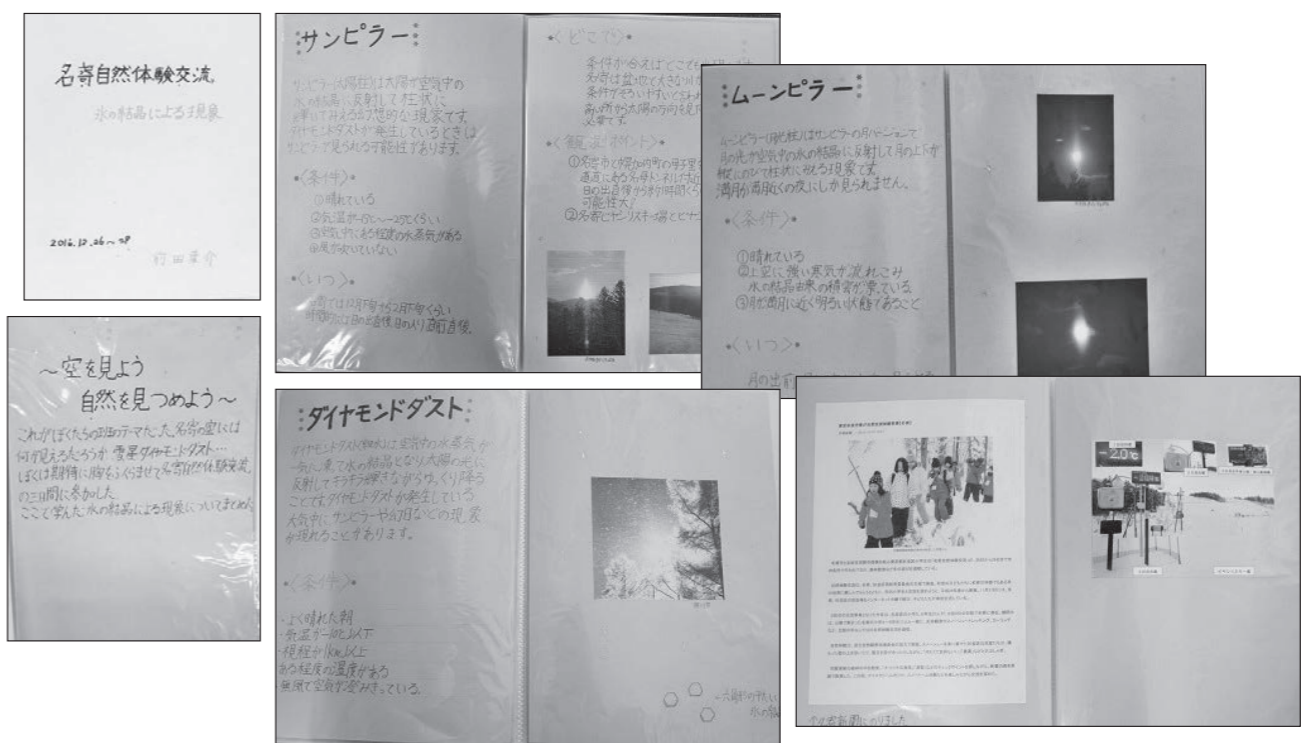
インターネット中継で、名寄からも応援を受けながら発表しました。



OB・OGも、発表会の応援にかけつけてくれました。



学習成果発表会では、児童たちが今回の自然体験を通して学んだことや、地元の児童たちとの交流等で感じたことなどを、作品と作文にまとめ、発表しました。発表の様子はジェイコム杉並でも放映されました。



「ぼく、名寄の気象について
と、発見しよう！自然を見よう！」

学校名	桃井第五小学校	氏名	江田 和奏
-----	---------	----	-------

星・雪・名寄

空いっぱい星!! 初めて見た金星!! 私の名寄での最高の思い出は、星空です。

私は、名寄市の星や、きたすばるについて調べてきました。

私たちが行った二泊三日の夜空は、一日目は残念ながら雲があって星が見られませんでした。二日目も見られるか心配しましたが、晴れてとてもきれいな夜空を見ることができました。

金星もはっきり見えました。キラキラした一番目立つ星だったので、すぐに金星だとわかりました。星は、寒ければ寒いほどきれいに見えるそうです。名寄市は、杉並区より何倍も寒いので、杉並区では見えない星もたくさん見られるのだなあと思いました。

きたすばるでは、「ピリカ望遠鏡」で星を見ました。日本で二番目に大きな口径で、1.6メートルの鏡を持つ大型反射式望遠鏡です。この鏡が大きいほど、天体の光を、より多く集めることができ、暗い天体まではっきり見えるようになります。

私は、初めて望遠鏡で星を見たので、とてもきれいで感動しました。

ちなみに「ピリカ」とはアイヌ語で「美しい」という意味です。

私は、名寄市の気候を生かしたミニ実験を行いました。実験の内容は、タオルを凍らす実験です。初めに、タオルをぬらしてかるくしぼったタオルをふりまわしました。完全に凍らないくらいのシャリシャリした感じでした。次に、もっと凍らせたかったので、積もっている雪にタオルをたたきつけました。そうするとカチカチに凍りました。テレビで、こういう実験をしているのを見た事があって、実際にやってみる事ができてとてもうれしかったです。

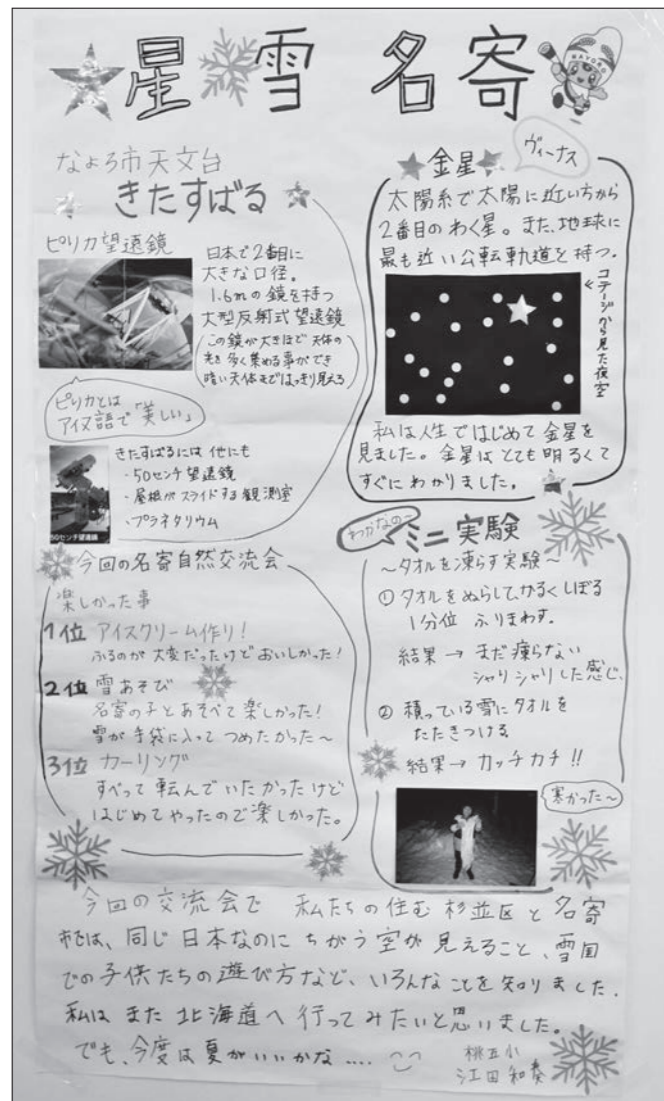
星空の他にも楽しかった事は、アイス作りです。振るのが大変だったけど3分くらいでアイスになってすごいと思いました。寒い中でアイスはとてもおいしかったです。

そして名寄の子たちと雪あそび。名寄の子たちはさすがで、歩くのがとても上手でした。

名寄は、雪がたくさん降ります。雪かきもみんなで協力してやっていてとても大変そうでした。雪国ならではの工夫をして寒い冬を乗り越えていくのは、とても大変なんだらうなと思いました。

今回の交流会で私たちの住む杉並区と名寄市では、同じ日本なのにちがう空が見える事、雪国での子供たちの遊び方など、いろいろなことを知りました。

私はまた北海道へ行ってみたくと思いました。でも今度は、夏の北海道に行ってみたくいです。



学校名	杉並第六小学校	氏名	中井 環
-----	---------	----	------

名寄・東京・ヒューストン いろいろくらべ

みなさんはヒューストンを知っていますか。ヒューストンはアメリカ、テキサス州にある場所です。スペースシャトルを打ち上げる NASA 有名ですね。ぼくは約5ヶ月前までヒューストンに住んでいました。ヒューストンは北緯だと、沖縄とほぼ同じ、とてもあたたかい場所です。ぼくらは東京に住んでいるので暖かいヒューストンと寒い名寄、そしてぼくらが住んでいる東京を比較してみましょう。

下のグラフはヒューストン、名寄、東京の月別平均気温を表わしています。この図を見れば分かると思いますが、ヒューストンは暑く、最高気温が約30度にもなり、最低気温が約11度で高いです。また、名寄市では最低気温がマイナス10度以下にもなり、最高気温が低いです。12月にはヒューストンの最高気温が東京の約5度差、名寄の最低気温が東京と約20度差となっています。

二つの写真を比べます。12月にぼくたちが行った名寄の写真と12月のヒューストンの写真です。ヒューストンは冬に半そでで過ごせる日がよくあるくらい、暖かい日が多くあります。雪も降りません。水も凍りません。

ぼくは名寄の家を見て驚いたことが二つあります。一つ目は屋根が急だということ、二つ目は灯油タンクがあるということです。ヒューストンの家は大きなしぼふの庭があり、広い一階建ての家が多いです。また、雪は降らないので、屋根が急ではなく、平らなことが多いです。ほかに、信号にも驚きました。ヒューストンは信号が電線でするされていて、強風で信号がゆれることがあります。けれど名寄の信号には雪への工夫が詰まっていて、すごいと思いました。

名寄では灯油タンクがあるのでしょうかいしましたが、テキサス、ヒューストンの家にあるものはプールとバーベキューコンロです。プールで遊び、テキサスバーベキューを食べるのが、テキサススタイルなのです。

ぼくは実験でタオルを凍らせる実験と、かみの毛を凍らせる実験をしました。タオル実験では、ぬれタオルを外で回すと何回で凍るかを調べました。しばらくすると200回、しばらくすると100回程度で凍りました。また、かみの毛実験では、かみの毛をぬらし、外に出て、何分で凍るかを調べました。最短で2、3分、長くて5分でかみの毛は凍りました。みなさんもぜひ、名寄のような雪国に行ったときには、やってみてください。

このマイナス20度以下になった、「しばれる」三日間、全てが驚きと楽しみにあふれていました。ヒューストンの友達を名寄に連れて行き、しばれる体験をさせて驚かせてみたいです。きっと友達は寒さに慣れていないので、オーマイガーと言いつつ、三秒も外にいられないと思います。



学校名	三谷小学校	氏名	齋藤 幸菜
-----	-------	----	-------

名寄の自然

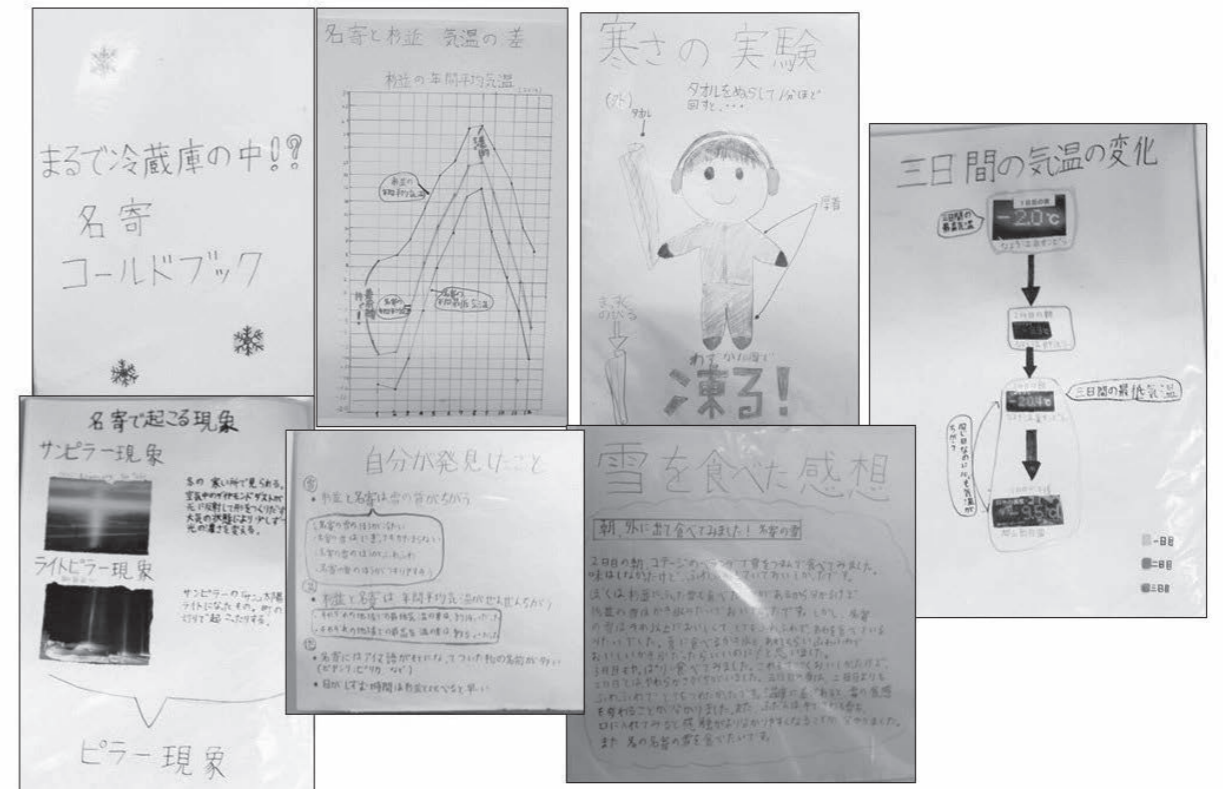
私は、名寄でたくさんのことを学びました。
 星・雪などに関係することを名寄市で調べました。
 まず、星についてです。
 きたすばるの方にピリカ望遠鏡で星を見せてもらいました。小さい星が集まっているところを見せてもらった時にたくさんあって、きれいだなと思いました。
 星の話をしてもらい、その中で一番心に残ったことは、金星の明るさは、マイナス4.5等で、おりひめ星より80倍明るいということです。金星は、東京でも明るくて見えるけれど、名寄市で見た時は、もっと明るく見えました。
 その他にも、たくさん教えてもらいました。
 次は、雪についてです。
 東京の雪は、ベチャベチャしていたけど、北海道の雪は、さらさらして、気持ち良かったです。東京にもこんな雪があるといいなと思いました。
 雪は、たくさん積もっていたのでとてもおどろきました。
 最後に、私は、三つのミニ実験をしました。
 一つ目は、タオルをふって凍るかどうかです。一日目は、100回ふってもこおらなかったけれど、二日目は、27回ふったら凍りました。
 二つ目は、しゃぼん玉をふいて凍るかどうかです。二日目に、ふいたら地面について凍りました。ペラペラになって、手でさわるとすぐとけてしまいました。
 三つ目は、水ふうせんを雪にうめて何時間で凍るかどうかです。二日目に、12時間で凍りました。
 すべて二日目に凍ったのでおどろきました。
 名寄自然体験交流を終えて思ったことや、名寄市でたくさん学んだことを家族や友達に伝えていきます。みなさんも北海道に行ったらやってみてください。



学校名	天沼小学校	氏名	磯川 颯斗
-----	-------	----	-------

まるで冷蔵庫の中!? 名寄コールドブック

ぼくが、このファイルにまとめたことは、主に二つあります。
 一つ目は、寒さのことです。ぼくは、まず最初に、名寄と杉並の年間平均気温を比べてみました。すると、二つの地域の年間平均最低気温の差が14度もありました。次に、年間の最高気温の差を比べてみると、五度ちがいました。よくみてみると、二つの地域の最低気温と最高気温だった月が1月と8月で同じでした。最後に、名寄の年間最低気温をみてみると、なんと約マイナス20度でした。
 その、マイナス20度がどれだけ寒いかを実験しました。タオルをぬらしてふる実験です。やってみると、なんとわずか10周で凍りました。
 二つ目は、雪のことです。ぼくは、普通は手でさわる雪を、口に入れてたしかめてみました。まず二日目の朝、コテージのベランダでつまんで食べてみました。味は水だけど、ふわふわしておいしかったです。ぼくは、杉並の雪も食べたことがあるから分かるけど、杉並の雪はかき氷みたいでおいしかったです。しかし、名寄の雪はそれ以上においしくて、とてもふわふわで、あわを食べているみたいでした。夏に食べるかき氷もあれくらいふわふわだったらいいのになと思いました。
 名寄へ行って、自分が発見したことは、
 「名寄の雪のほうが冷たい。」
 「名寄の雪は、にぎってもかたまらない。」
 「名寄の雪のほうがふわふわ。」
 「名寄の雪のほうが積もりやすそう。」
 「名寄のほうが、一年を通して杉並より寒い。」
 など、冷たい印象ばかりでしたが、ご飯がものすごくほかほかだったり、温泉がものすごくあつあつだったり、部屋は東京よりあったかかったです。
 また、マイナス20度を体験しに、名寄へ行きたいです。



学校名	沓掛小学校	氏名	平入 来実
-----	-------	----	-------

何事もチャレンジが大事

私は小学生名寄自然体験交流会で沢山の事に驚き、沢山の事を学んだので、それらについて紹介します。一つ目は「雪」です。

東京の雪はベタベタしていて、よく固まるのに比べ、名寄の雪はサラサラしていて、全く固まりません。その為、雪合戦の時の雪玉は自分で作らず、落ちていた雪の塊を使います。

二つ目は「星」です。

東京は青白い点が指で数えられる程しかない様に見えるけれど、名寄は光り輝く美しい星が空を埋めつくすくらいありました。もちろん、沢山の星座が見られました。

三つ目は「気温」です。

東京は夜でも3度くらいですが、名寄では三日目の朝にはマイナス21度を記録しました。名寄ではよく「しばれる寒さ」と言いますが、本当に体に痛みを感じて、「しばれる」の意味がよく分かりました。

四つ目はカーリングです。

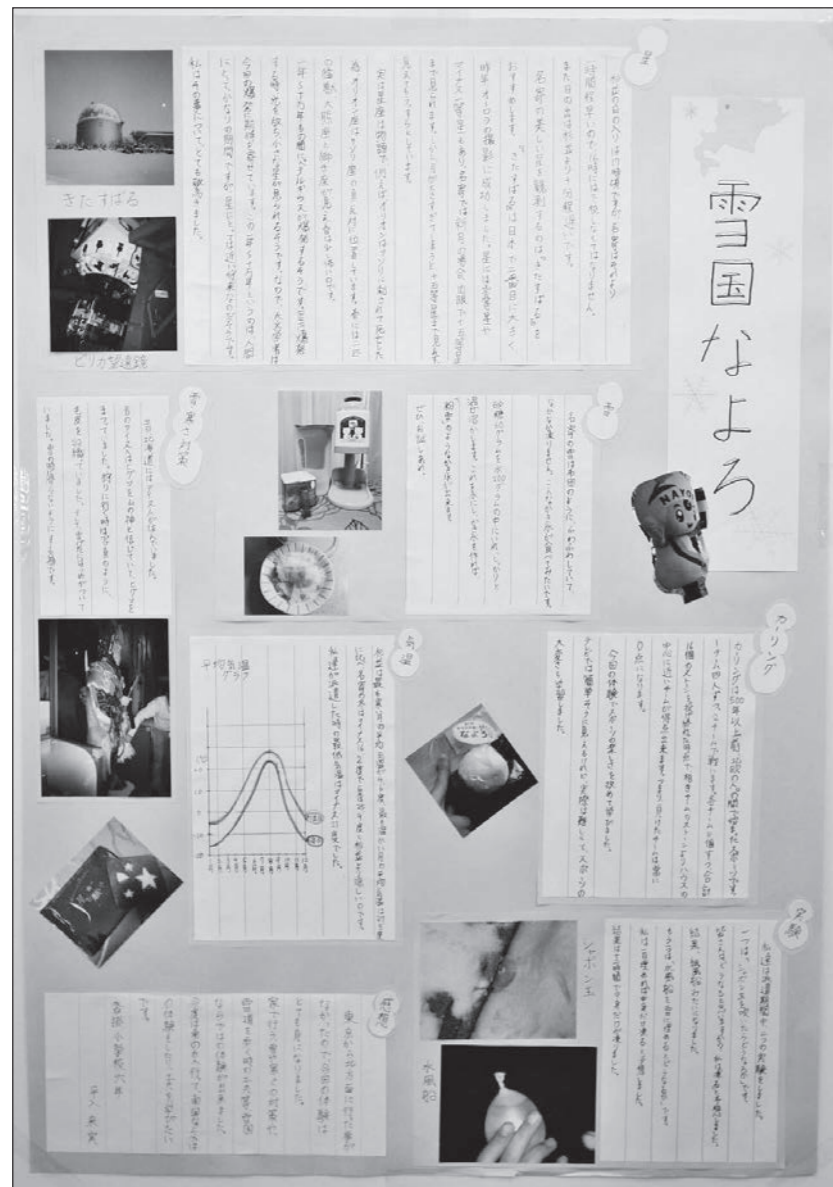
カーリングで使うストーンは20キログラムもあって、持ち上げてはいけないとの説明がありました。ストーンは重すぎて、なかなか移動出来ませんでした。また重すぎて、遠くに飛びませんでした。それを補助してくれるのがブラシです。みがけば、その場所は滑りやすくなり、よく伸びます。また、相手側のストーンには絶対に触ってはいけないそうです。テレビでは、とても簡単そうに見えますが、実際は難しかったです。

最後は昔からの寒さ対策です。

何千年も昔の人は狩った獲物の毛皮を羽織って、狩りに出かけていたそうです。

私は名寄に行って経験した事は全部初めてでした。初めて知った事ばかりでした。何となく知っていたことも行って試してみないと、分かりませんでした。何事も経験してみないと、分からないと思いました。

今後はチャレンジ精神を忘れずに、何事にも挑戦していきたいです。



学校名	三谷小学校	氏名	松田 大河
-----	-------	----	-------

名寄寒さおそるべし～除雪～

今回名寄に行き、一番印象的だったことは、除雪車が作業をしている様子を見たことです。名寄で実際に見た除雪車は二種類でしたが、他にも種類があるのではないかと思います。調べることになりました。

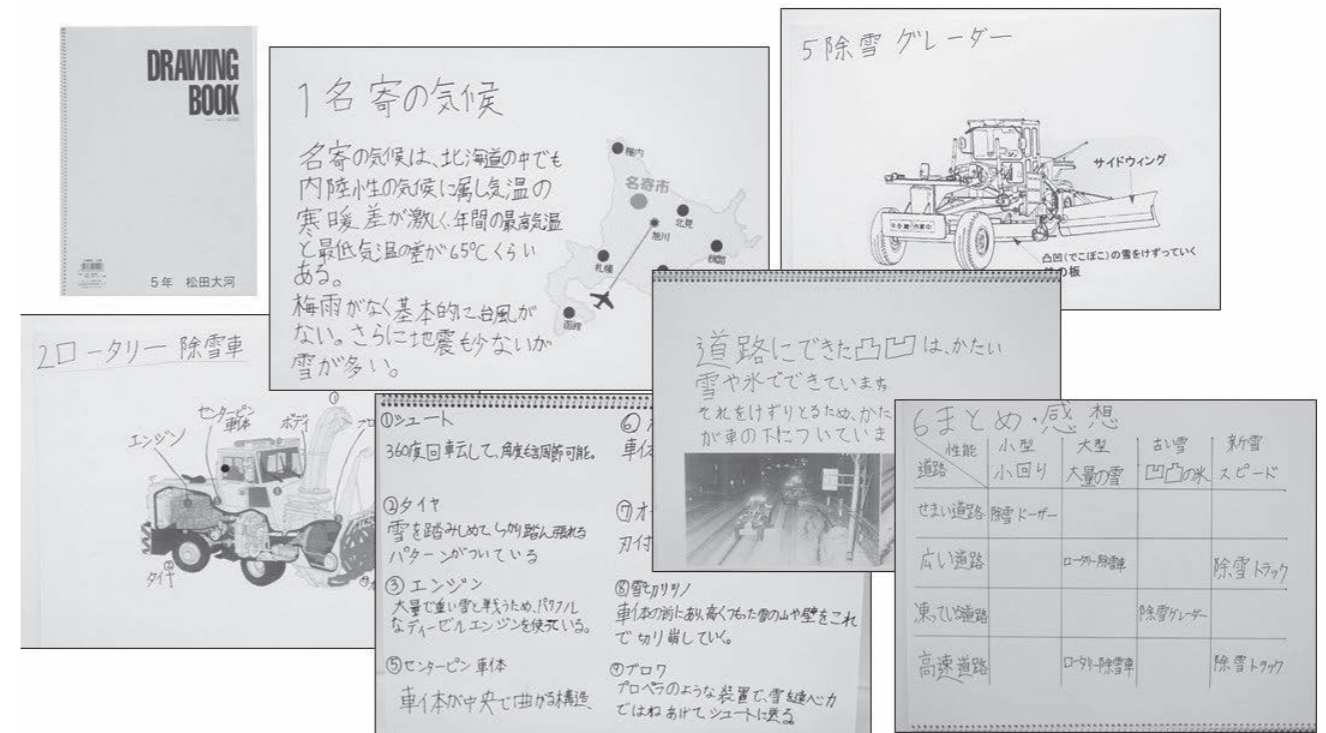
まず、ロータリー除雪車です。この除雪車はスクリーンで車体に集めた雪を遠心力ではね上げ、シュートに送る仕組みになっています。トラックと連携すればシュートから直接トラックに雪を積むことができますので、効率よく除雪作業をすることができます。

次に、除雪トラックです。車の前面のプラウで雪を飛ばし、高速で除雪をすることができます。

そして、除雪ドーザーです。とても力持ちで、Uブレードで雪を持ち上げて運ぶことができ、雪を押し道を広げることもできます。小回りもきくため、ふつうの除雪車では入りにくい場所の除雪ができます。

最後に、除雪グレーダーです。車の前面ではなく、車体の下に鉄の板がついています。これは、道路にできる凹凸のある固い雪や氷をけずり取るためのものです。大量に雪をのけることはできないけれど、大切な役割を担っています。

このように大きさや性能など様々な種類の除雪車があり、それぞれの長所を生かした除雪作業を行っていることが分かりました。しかし同時に、色々な問題があるということも知りました。それは除雪車を運転する人の高齢化が進んでいたり、除雪をする技術が若い人に受け継がれていなかったりすることです。最近は何の産業も高齢化が進んでいるということは知っていたけれど、除雪でも後継者が少なくなっているということを知りました。そこで、何か解決策はないのだろうかと考えました。例えば、遠く操作や自動運転の技術を除雪車に採用すればいいのではないかと思います。ぼくは機械が好きなので、将来は除雪車の開発をしてみたいです。



学校名	杉並第三小学校	氏名	間宮 章智
-----	---------	----	-------

美しい極寒の世界

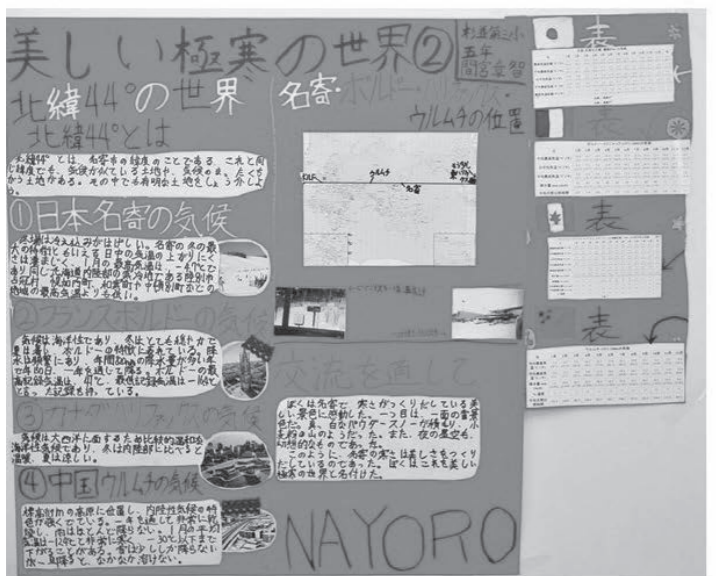
今から、ぼくが名寄で学んできたことを寒さを中心に話していきます。途中で問題を出したりするのでぜひ参加してください。

まず、ぼくは名寄で寒さを感じるために、寒さに関する実験をしました。その中の1つを紹介したいと思います。タオル実験という名の実験で、ぬれたタオルを外でふって見たら凍るか、凍らないかを調べるといふものです。ここでみなさんに問題です。実験時はマイナス7度だったのですが、タオルは凍ったのか、凍らなかったのかをばく手で答えてもらおうと思います。このタオル実験でタオルが凍ったと思う人は、はく手をしてください。ありがとうございます。この実験、実は凍ってしまったのです。ちなみに凍るまでに3分くらいかかりました。

そして、旭山動物園では、寒い土地の動物について調べました。トナカイやエゾシカは夏と冬で姿を変え、北極圏で暮らす、ホッキョクグマは寒さを感じにくくするために、体からつき出た部分が小さいなど寒い土地の動物は寒さにたえるための工夫された体のつくりになっているということがわかりました。

また、北国博物館では、名寄と緯度が同じ地域を学びました。名寄の緯度は北緯44度なのですが、みなさんご存じの通り名寄はとても寒いのです。しかし、全く違う気候の北緯44度の土地がありました。ここで問題です。北緯44度の地域にはどんな所があるのでしょうか。思いついたものをぼくが止めるまで教えてください。どうぞ。はい、ありがとうございます。ぼくが作品で紹介しているのは、カナダのハリファックス、中国のウルムチ、フランスのボルドーですが、他にも、イタリアのジェノバや、ルーマニアのブカレストなどがあり、ルーマニアのブカレストは名寄と真逆で温暖な気候なのだそうです。

ここまでで紹介しきれなかったものでも寒さを感じるものはまだありました。雪はパウダースノーで空気はすんで、星もよく見えました。まさに美しい極寒の世界でした。今日はクイズにご協力いただきありがとうございます。



学校名	高井戸第三小学校	氏名	前島 ゆずゆ
-----	----------	----	--------

名寄ってこんなところ！

私は、今回北海道を初めて旅しました。それに加え、東京では出来ない事・体験なども経験しました。今回皆さんにそのごく一部をご紹介します。〈森を探検！スノーシュートレッキング！〉

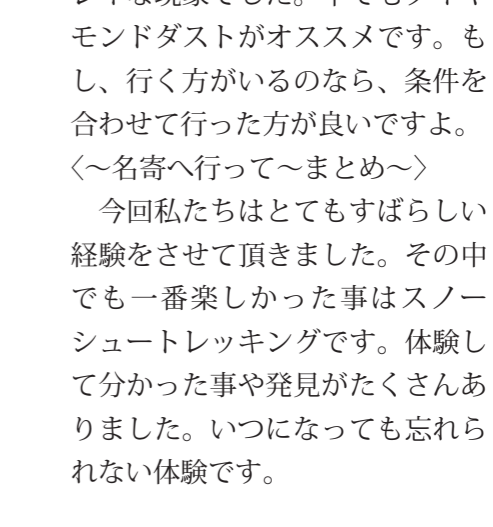
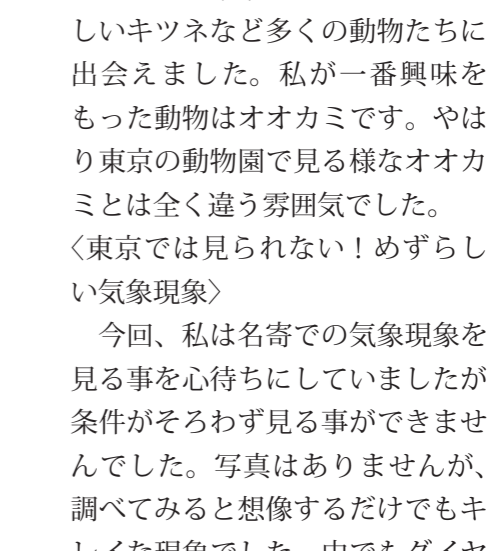
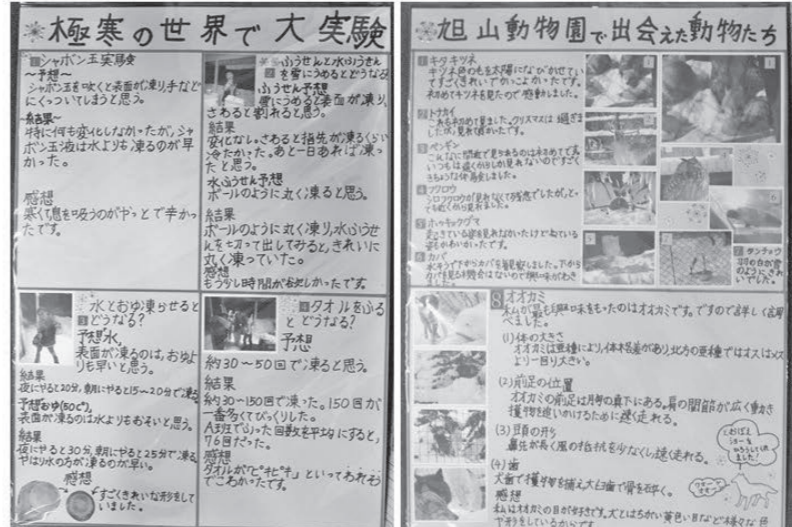
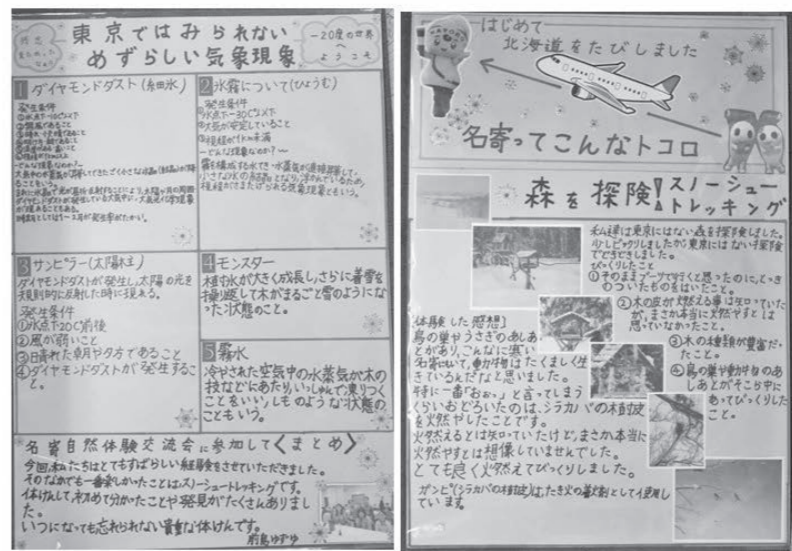
この体験では東京にはない森を探検しました。少しビックリする事・ドキドキする事や驚いた事そのように感じられる探検をしました。特に面白かった事は、シラカバの木の皮を燃やした事です。まさか本当に燃やすとは思っていなかったのと、良く燃える様子を見てとてもビックリしました。〈極寒の世界で大実験！〉

この実験では「東京ではあたりまえの事をやったらどうなるか？」について予想を立てて自分で実験してみました。結果が変わらない物もありますが、全て一応説明を加えました。その中でも一番スゴイ！と思ったのは水風船実験でした。予想通り丸く凍りました。出してみるとキャッチボールができそうなボールができあがっていてキレイな形になっていました。もう少し気温が低ければシャボン玉も凍ったと思います。

〈旭川動物園で出会った動物たち〉
ここには東京ではとてもめずらしいキツネなど多くの動物たちに出会えました。私が一番興味をもった動物はオオカミです。やはり東京の動物園で見る様なオオカミとは全く違う雰囲気でした。〈東京では見られない！めずらしい気象現象〉

今回、私は名寄での気象現象を見る事を心待ちにしていたのですが条件がそろわず見る事ができませんでした。写真はありませんが、調べてみると想像するだけでもキレイな現象でした。中でもダイヤモンドダストがオススメです。もし、行く方がいるのなら、条件を合わせて行った方が良いでしょう。

〈～名寄へ行って～まとめ～〉
今回私たちはとても素晴らしい経験をさせていただきました。その中でも一番楽しかった事はスノーシュートレッキングです。体験して分かった事や発見がたくさんありました。いつになっても忘れられない体験です。



2班 名寄寒さおそるべし！
「カチコチ」大実験！

2班 名寄寒さおそるべし！
「カチコチ」大実験！

学校名	桃井第四小学校	氏名	山崎 大
-----	---------	----	------

極寒の地～名寄～

ぼくは、学校の友達にさそわれて、この自然体験交流に参加しました。そして事前学習で新しい友達にも出会い、名寄市に行くのがだんだん楽しみになっていきました。そしてぼくは、事前学習を通して東京との雪の深さや、人々の暮らし方などを比べるとどのような違いがあるのかを調べたいと思いました。

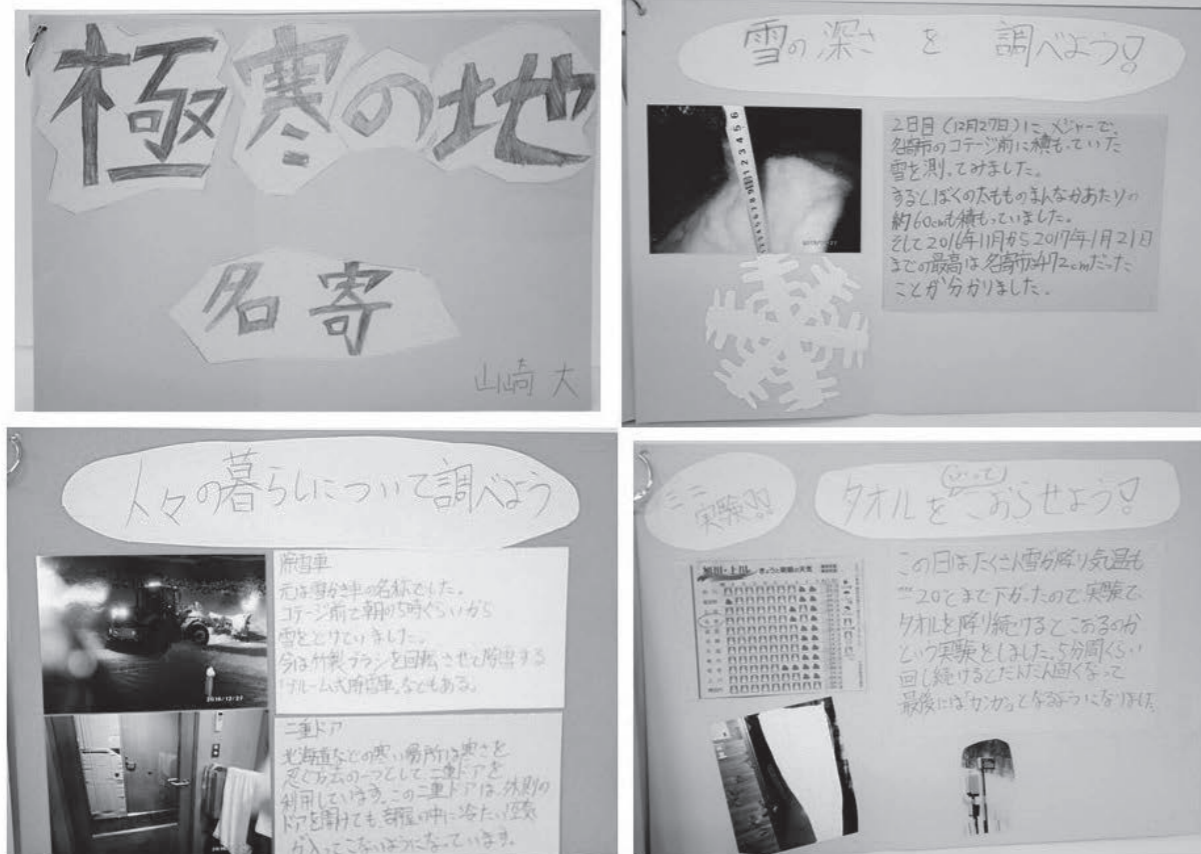
まず、雪の深さを調べました。東京では、雪の深さは最高で10cm程度だけど、名寄市では、コテージ前に積もっていた雪を測ってみると、ぼくの太もものあたりの60cm程ありました。そして2016年11月から2017年1月21日までの最高は、472cmだということがわかりました。

次に、名寄市の人々の暮らしについて調べてみました。まず、「除雪車」というものは、雪かきをし、通路などに雪がじゃまな場合は除雪車が雪をどけてくれます。除雪車は元は雪かき車の名称でした。今は、竹製のブラシを回転させて除雪する「ブルーム式除雪車」などもあります。

次に「二重ドア」は、北海道などの北部などで寒さを防ぐ方法の一つとして利用しています。この二重ドアは外側のドアを開けても冷たい空気が入ってこないようになっています。東京では、1つしかドアはなく、開けると冷たい空気が入ってきて、玄関や、家の中がとても寒くなるけど、2重ドアがあれば家の中が寒くならないのでとても便利だなと思いました。

最後にこの日は-20℃まで行ったので、タオルを降り続けるとどうなるのか、という実験を行いました。そして5分間くらい回し続けていると、だんだん凍って、最後には、たたくと「カンカン」と鳴るほど固くなっていました。

このような事から、名寄市は東京とはまったく違う雪が降り、寒さに対応するため、東京とは違う工夫がされているなど感じました。



学校名	新泉和泉小学校	氏名	浅野 隼輝
-----	---------	----	-------

僕を感じた-20℃の世界

僕は今回、名寄市に行き、東京とはちがう自然の厳しさを実際に体で感じる事ができました。その寒さは想像をこえるものでした。その中で太陽柱や星などといった気象関係のことに興味をもちました。

特に、僕が一番興味をもったのは太陽柱です。太陽柱はサンピラーともいい、太陽の光が柱のように見える現象です。氷点下20度以下の厳しい冷えこみに加え、風のない早朝などにまれに見られるとても珍しい現象です。三日目の朝起きると気温がとても下がっていました。僕は、楽しみにしていたサンピラーを見るために、早起きをして外へ出て行きました。しかし、気象条件がそろっていませんでした。

天体観測をとっても楽しみにしていました。天文台のきたすばるには日本で二番目に大きいピリカ望遠鏡があると知り期待に胸が高まりました。一日目は見られませんでした。二日目にチャンスがありその見え方に驚きました。肉眼でも金星をはじめとした様々な星を見ることができました。ピリカ望遠鏡で見た星団はとても明るくきれいに見えました。朝の6時頃まできれいに星が見えたため、空気がとてもすんでいるのだなど実感しました。

寒さと雪にはとても驚きました。三日目は氷点下21度を観測し一番寒くなりました。北海道には「しばれる」という方言があり、とても寒いという意味なのですが、氷点下20度の世界はまさに「しばれる」世界でした。また、あまりの寒さにタオルもかみの毛も1分もかからず凍ってしまいました。雪は水分が少なく雪球が作れません。雪質が良く、さらさらしているためそりもとても良くすべりました。

僕は、この貴重な経験を通して、東京では感じられない体験をすることができました。極寒と雪を感じ、もっと名寄のこと、雪国のことを知りたいと思うようになりました。また、名寄の子とも交流でき、友達の輪も広がりました。新たな世界を体験でき、とても充実した三日間でした。お世話になった方々への感謝を忘れず、この体験で学んだことを今後の学習や生活に生かしたいです。



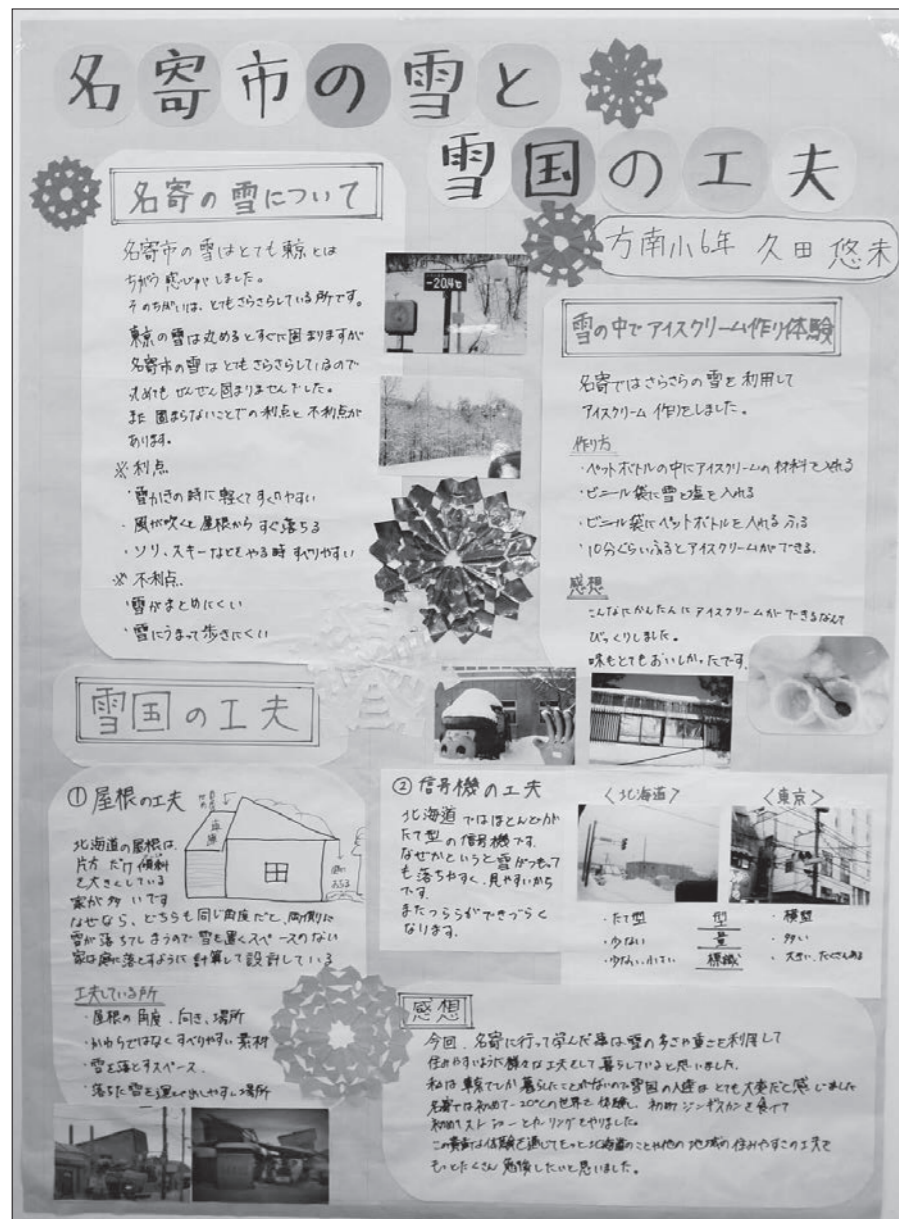
学校名	方南小学校	氏名	久田 悠未
-----	-------	----	-------

名寄市の雪と雪国の工夫

私は、名寄市の雪と雪国の工夫について紹介します。名寄市の雪は、とてもさらさらしていて固めようとしても固まらない雪でした。したがって積もっている所は、すぐに足がうもれてしまいました。東京でたまに降る雪は、とても玉が作りやすかったので、名寄市の雪をさわって、こんなに差があるんだ、こんなにさらさらな雪が降るのは北海道のようなたくさん雪が降る所だけなのでさわってよかったと思いました。この雪でアイスクリーム作りをしました。ふるのがとてもたいへんだったのでつかれましたがおいしかったです。それにソリで遊んで転んだ時に、雪が深くてなかなか立ちあがれませんでした。また雪がたくさん降る所での工夫などもたくさんありました。北海道に行った時は、横の方にかたまっている雪が45cmほど積もっていてこんなに多いと雪をどけるのもたいへんだろうと思いました。雪がたくさん降って屋根などに積もると家がつぶれてしまうことがあるので北海道では、片方の屋根が急で片方の屋根がゆるやかな屋根がありました。また雪の重みで信号機が壊れてしまうこともあるので縦の

信号機がたくさんありました。横の信号機がたくさんあるのは、あまり雪が降らない地域に多いので東京では横の信号機がふつうなのです。北海道に行った時は、とても不思議な感じがしました。東京と比べ北海道ではあまり信号機の数がなく標識も少ないと思いました。

私は、北海道でカーリング、スノーシュートレッキング、アイスクリーム作りを初めて体験しました。また-20℃という気候で手や耳がとても冷たく痛くなりました。東京にいたら出来ないことなので、とても貴重な体験でした。機会があったら夏の北海道にも行ってみたいです。また、今回体験したり学習させてもらったりした場所にももう一度行ってちがう勉強もしたいです。名寄に行った三日間で体験したことを今後の生活に生かしていきたいと思っています。



学校名	雙葉小学校	氏名	檜垣 咲良
-----	-------	----	-------

名寄の暮らし

今回行った名寄は北海道の中でも北の方にあるので覚悟はしていましたが予想以上にとても寒かったです。そのような極寒の中での生活から工夫し、改良されたことについて調べてみました。

一つ目は消火栓です。主に杉並区で見られるのはマンホール型の消火栓です。名寄市では東京とはちがいたくさんの雪が降ります。雪が積もったとしても大丈夫なように背が高く作られています。

次は屋根についてです。名寄市のような北国では雪がたくさん降ります。そのような中で東京のような家にしてしまうと家が雪の重みに耐えられなくなり崩壊してしまうことも考えられます。ですから屋根を急な角度の三角屋根にすることで雪が屋根上に留まることを防ぐなどして対処しています。しかし最近では平らな屋根が増えています。その一番の原因は三角屋根による被害で、となりの敷地に雪がすべり落ち雪が積み上げられたり、人の上に落ちてきてしまうことが考えられます。こういった理由から屋根を平らにした「無落雪建築」が見直されていることが分かりました。またそうすることによって

高齢者が雪下ろしをするのは少なくなると思います。しかし高齢者が雪かきなどをしてけがをしてしまうことも事実です。その高齢者の負担を軽減するためには若い人の手助けが必要だと思います。そのためにも若い人が住みやすく活躍できる環境をつくっていくことを考えていかなければならないと考えました。

名寄市は北海道で一番住みやすい市町村に選ばれています。また、雪がすばらしいだけでなく農業も盛んでもち米やアスパラガスをはじめ多くの野菜が栽培されています。私が名寄市へ行って今まで見たこともない自然のすばらしさを感じたように多くの方にも名寄市の魅力を知ってもらいたいです。



学校名	富士見丘小学校	氏名	岩崎 緋李
-----	---------	----	-------

名寄の気候と農作物

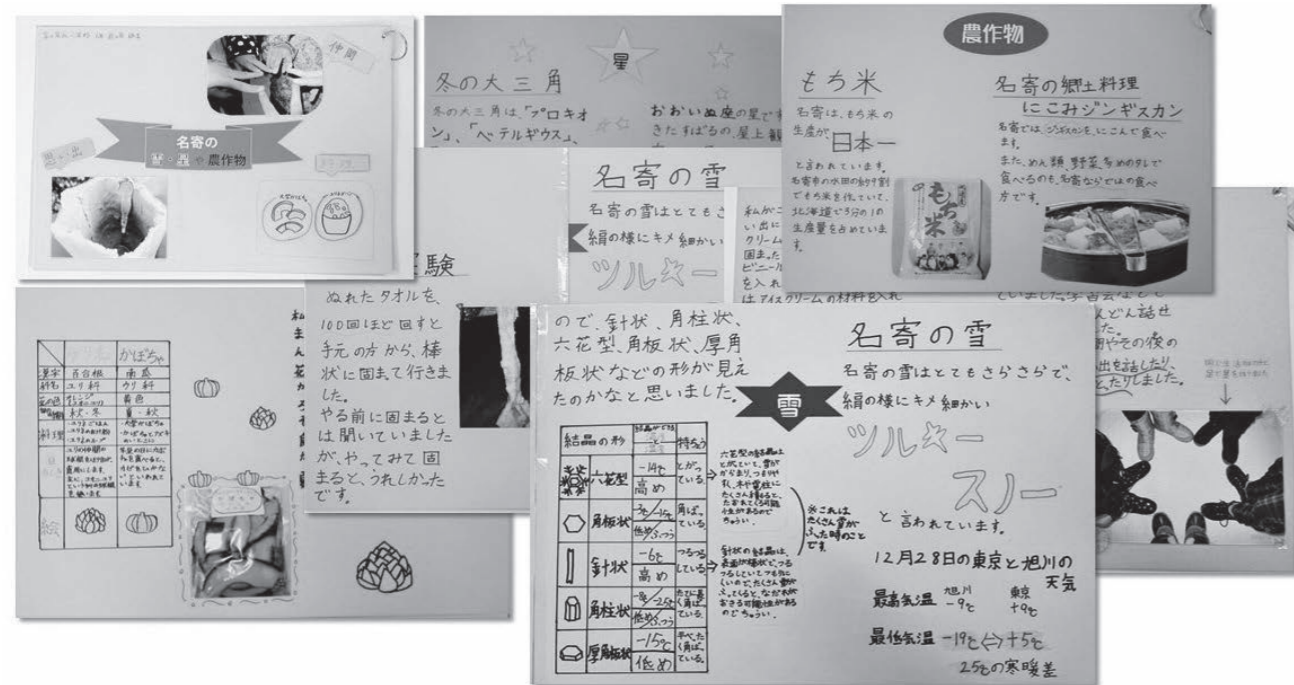
私は名寄自然体験交流学習の中で、特に印象に残った二つの事についてお話します。

一つ目は、名寄と杉並の気候の違いについてです。名寄は北海道の中でも北の方にあり、私たちが行った三日間の最低気温は三日目の朝のマイナス20度でした。とても寒く、手ぶくろを付けないと、手が凍りそうでした。ぬれたタオルを百回回すとタオルがまっすぐ棒状に固まりました。雪質は東京で降る雪とは違いとてもサラサラしていました。名寄の雪は、粉の様なパウダースノーをこえ、絹の様にキメ細かいシルキースノーと言われていています。名寄はあまり雪がとけず、つららがありませんでしたが、旭山動物園にはたくさんつららがありませんでした。北海道の中でも、名寄市は寒い事がわかりました。

二つ目は、名寄の農作物や特産品、郷土料理についてです。名寄は、アスパラガス、メロン、コーン、かぼちゃ、馬れいしょ、ゆり根、ほうれん草など、一年を通してたくさんの農作物がとれます。その中でも、名寄はもち米の生産が日本一と言われていています。名寄産の農作物を使ったおやつもたくさんあります。その中で、もち米を使った、ソフト大福があります。ソフト大福にはたくさん種類がある中で、私はメロン味の大福を食べました。もっちりしていてとてもおいしかったです。郷土料理は、にこみジンギスカンです。焼いて食べる時とはちがい、にこんで食べると、羊の肉が少しやわらかく感じてとてもおいしかったです。

私は名寄へ行って、マイナス20度の極寒を体験したことで、東京にもどってからは、あまり寒く感じませんでした。また、旭川空港は雪が積もっていましたが、羽田空港は雪がなかったので、北海道と関東の違いを感じました。

体験した中で、一番予想以上だったことはカーリングです。簡単そうだと思っていましたが大違いでした。ストーンの回転のかけ方、ブラシの持ち方など、分からない事だらけでした。でもとても楽しかったです。この交流体験で、知らなかったことでも、挑戦すれば、楽しいことがあるとわかりました。貴重な体験ができました。



学校名	天沼小学校	氏名	名城 薫
-----	-------	----	------

北海道で学んできた事

私は、「冬の北海道名寄市で大自然を学ぼう！」の小学生名寄自然体験交流事業に参加して、学んだことが三つあります。

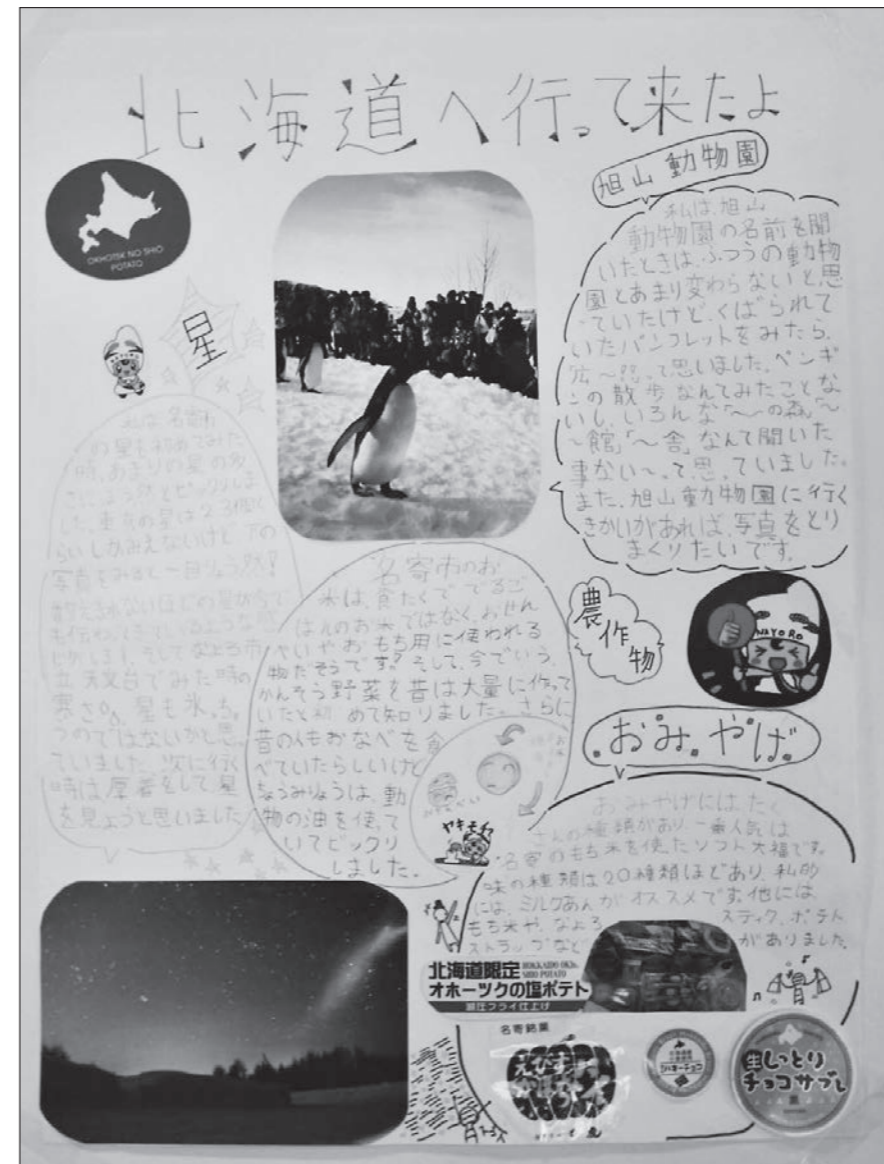
一つ目は、名寄と杉並のちがいです。気温はもちろん、そして、星空の暗さ、大きさ、数、色などと、杉並ではできない寒さの体験や、杉並では見られない満点の星空が見えてよかったです。そして私は、想像以上の名寄の寒さと、星のかがやきを学びました。

二つ目は、北海道の農作物です。私たち、4班は雪と星と農作物の事をテーマにしていました。しかし、北国博物館には、あまり農作物の事がなかったので、聞いた話と、荷ぞうの事を調べました。聞いた話によると、今でいう乾燥させた野菜を昔は大量に作っていたらしいです。そして、昔の人もおなべを食べていたらしいけど調味料は、動物の油を使っていたという事です。荷ぞうの事では、今は人が運んでいますが昔は馬がいろんな荷物はこんでいて楽だなと思っていたけど、その分のエサ代や、病気のお金がかかって、大変だなとも思いました。そして、ビックリした事があって、名寄の米は、食卓のご

はんの米ではなく、おせんべいやおもち用という事を始めて知り、そしてビックリしました。

最後は、名寄の雪です。杉並の雪は、ベチョベチョ水っぽくて、雪というよりとけた氷のような雪だけど、名寄の雪はさらさらしていて、とっても気持ちよかったです。しかし、さらさらすぎて雪だるまがガタガタになってしまいました。私はふと、アメをなめて雪を食べたら、キンキンのかき氷になるのではないかと思いました。また北海道に行ったらやってみみたいです。

私はこの交流会に参加して、仲間との協力、北海道と東京のちがいの多さなどと、たくさんのことを学びました。私はもうこの交流会には参加できないけど、次に行く人にも、冬の名寄をぞんぶんにあじわってほしいです。本当にありがとうございました。



4班 東京と名寄の雪・星や農作物の違いについて調べよう

4班 東京と名寄の雪・星や農作物の違いについて調べよう

学校名	桃井第三小学校	氏名	島野 広大
-----	---------	----	-------

初めての北海道

初めての北海道で、ぼくが体験した事を発表します。

事前学習会で調べた時に、ぼくが気になったのは、名寄市の気候と農作物の事です。

まず気候についてです。名寄市の気温は、ほぼ一日中マイナス気温で杉並区に住んでいたら経験できない寒さです。しかし、あまり寒さを感じなかったのは、建物の中はとても暖かくいろいろな工夫をしているからなのではと思いました。道路も凍ってなくて、車も普通に走っていて、すごいなと思いました。道路が凍らないように、塩化カルシウムをかけてあり、雪国ならではの工夫を感じました。杉並区でこんなに雪が降ったらすぐに交通渋滞で事故が起きてしまいます。

そして雪質が日本一と言われているのでその事も確かめました。ふわふわでさらさらして、雪の上を歩くと深く沈み、まるで雲の上を歩いているようです。宿舎の前の雪の中にジャンプして飛び込みましたが気持ち良かったです。

次に農作物についてです。もち米生産日本一で9割の農家がもち米を作っているそうです。お正月には、獅子舞が出て農作物がたくさん収穫できるように祈るそうです。秋には収穫したもち米で、せんべいやお菓子を作るそうです。ぼくはおみやげに名寄のもち米を使いたいちご大福を買ってきました。いちごがとても大きくて、中にはミルク風味のあんこが入っていて、買った翌日に食べましたが柔らかくてもちもちしていておいしかったです。

名寄に実際に行って見た感想は、名寄の人々は、こんなに寒いところでも暮らせるような工夫や楽しみを見つけて生活している事がすばらしいと思いました。名寄の子どもたちも寒くないような服装をしていて参考になりました。いろいろな体験ができてこの交流会に参加できて本当に良かったです。



学校名	荻窪小学校	氏名	向井 春花
-----	-------	----	-------

名寄の冬を感じて

みなさん、自然体験交流はどうでしたか？私は、名寄で東京との違いで一番おどろいたのは、星です。空を見ると北斗七星がきらきらと輝いていました。名寄は空気がすんでいるので星がきれいでした。天文台、「きたすばる」の台長さんにたくさん教えてもらいました。ここでは、なんと北斗七星が真近で見られました。一つ一つの星が大きくてびっくりしました。

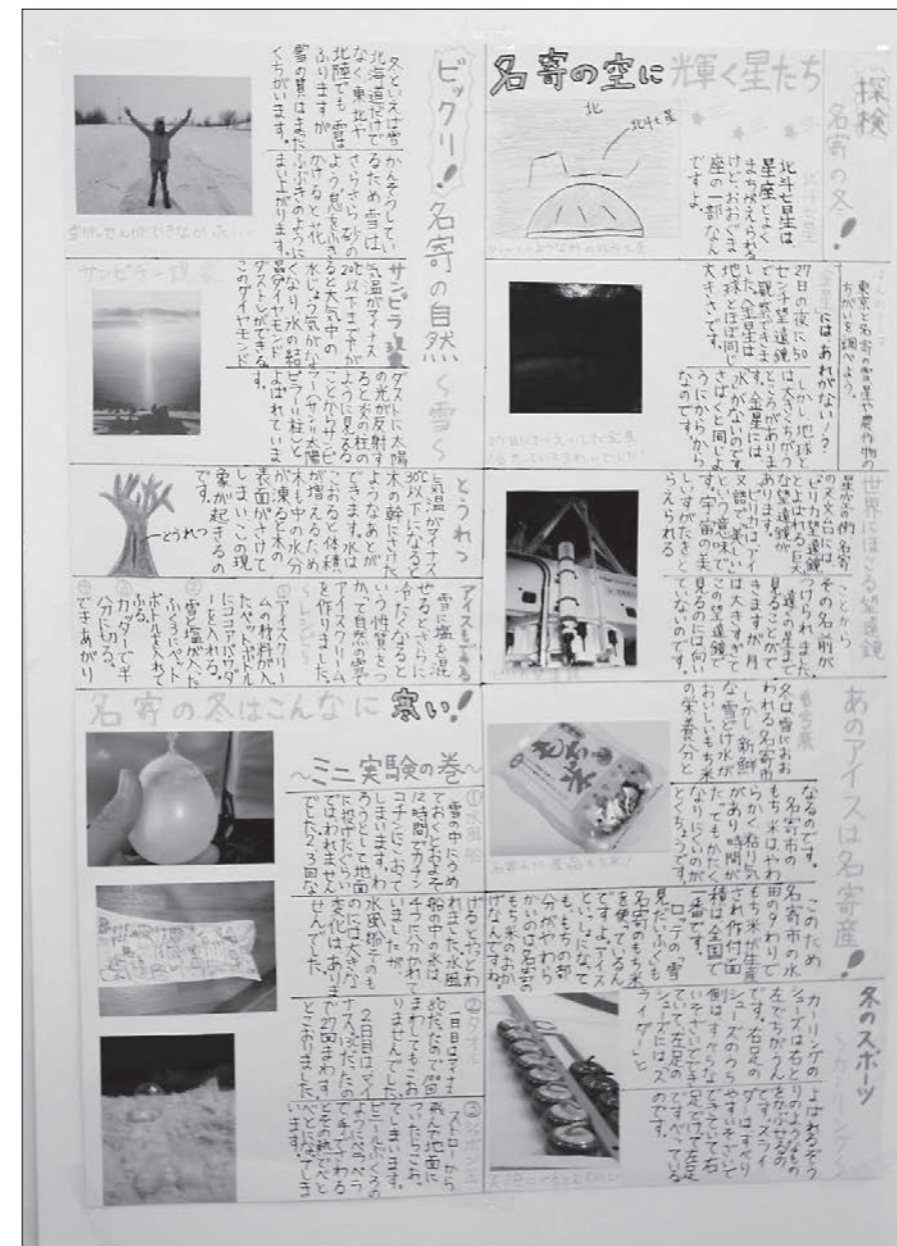
そして、星にも人間と同じように寿命があって、最後は、爆発してしまうのです。名寄に行ったことでこれまで興味のなかった星のことが好きになりました。

私は、一年生から三年生まで福井県で暮らしていました。雪には、慣れてるつもりでしたが、北海道の雪はまったく違いました。同じ雪でも北海道の雪はさらさらなのです。福井県は水分が多いので雪玉が作れるのですが、名寄では、手でにぎってもすぐにくずれてしまいます。

また、名寄の寒さは想像以上でした。水風船は雪の中に埋めておいたらかちかちに凍ってしまい、シャボン玉も飛んでいるうちに凍ってしまうのです。タオルもふり回したら板のようになってしまいました。

冬の間、ずっと雪におおわれている名寄では、その雪によって農作物を生産できるのです。それは「もち米」です。おいしいもち米を作るには、おいしい水が必要です。名寄では雪だけ水を使っておいしいもち米を作っているのです。そして、名寄では水田の9割がもち米を作っていて、作付面積は全国で一位です。名寄で実際に食べてみたのですが、とてもやわらかくておいしかったです。ロッテの「雪見だいふく」も名寄のもち米で作っているそうです。

私は、初めて名寄に行って、自然の美しさやありがたみを学ぶことができました。杉並の自然も大切にしていきたいです。



4班 東京と名寄の雪・星や農作物の違いについて調べよう

4班 東京と名寄の雪・星や農作物の違いについて調べよう

学校名	高井戸小学校	氏名	徳増 歩己
-----	--------	----	-------

昔の人々の寒さと雪との関わり方

私は名寄に行って昔の人々の寒さと雪との関わり方について見たり聞いたり体験しながら学びました。なぜ、関わり方について学んだかと言うと、今は温度調節をボタン一つで出来るエアコンですぐに寒さをしのげるようになっていますが昔はその様な物はないのでどのように寒さをしのいでいたのか不思議に思ったからです。

まず最初にアイヌ人々の生活での関わり方です。アイヌの人々の家は葉で幾重にも囲まれています。室内では、囲炉裏で暖を取ります。その上に肉をつるし煙でいぶしくんせいの保存食を作りました。マイナス20度にもなる厳しい寒さの冬に欠かせない保存食が暖を取る囲炉裏から出来るとは一石二鳥です。

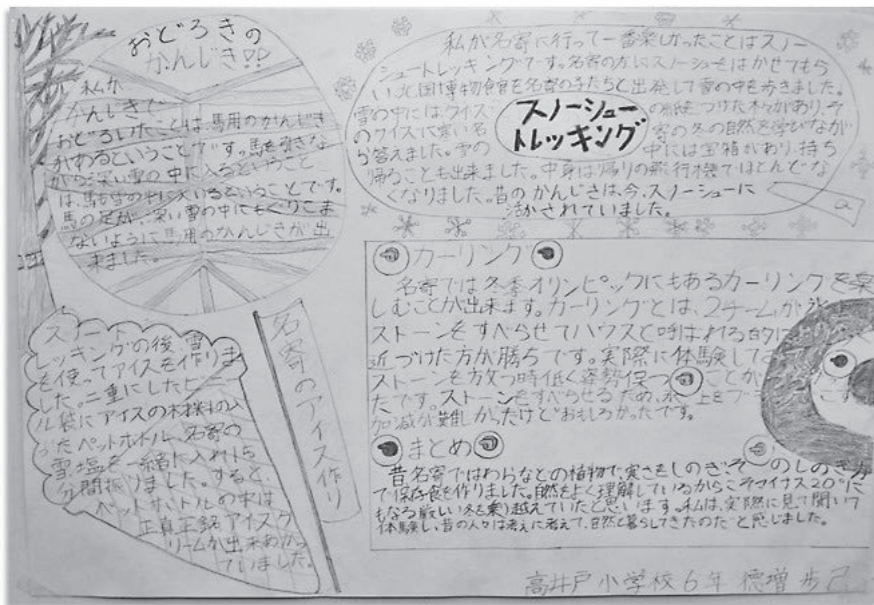
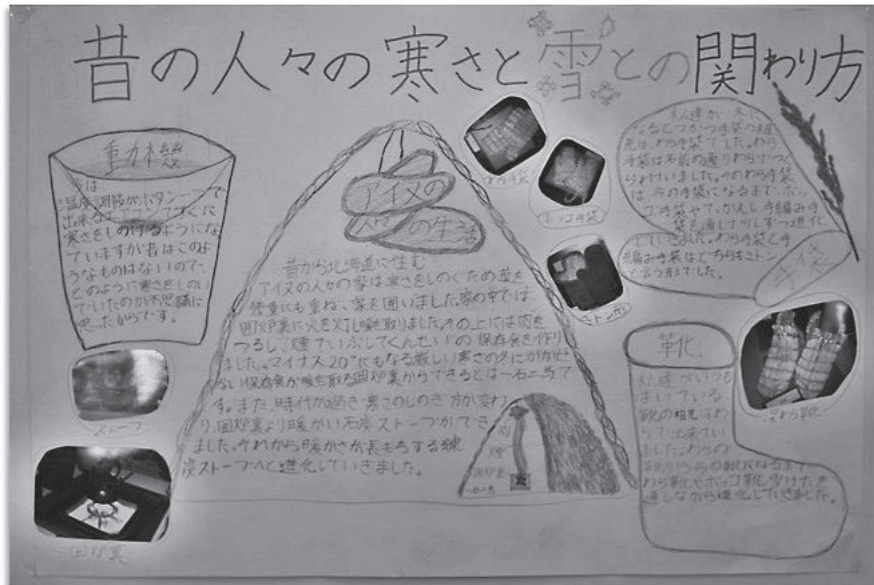
次は、私達も冬になると使う手袋や靴についてです。手袋と靴には共通点があります。それはどちらもわらが初まりでした。わら手袋や深わら靴は名前の通りわらで作られていました。お米をとったわ

らが寒さをしのげることは知りませんでした。

次に、私がおどろいたことは馬用のかんじきがあることです。人だけでなく馬の足も深い雪の中にもぐりこまないように、馬用のかんじきが出来ました。

私が、一番楽しかったのはスノーシュートレッキングです。名寄の子供たちとクイズの紙がはりつけられた木のある雪の中を歩きました。宝箱も見つけながら寒さの厳しい名寄の自然について学びました。ここではかせてもらったスノーシューは昔のかんじきが活かされていました。

昔名寄ではわらなどの植物で寒さをしのぎ、そのしなぎ方で保存食を作りました。自然をよく理解しているからこそマイナス20度にもなる厳しい冬を乗り越えられていたのだと思います。私は今回の体験を通して、昔の人々は考えに考えて自然と暮らしてきたのだと感じました。



学校名	馬橋小学校	氏名	藤川 愛佳
-----	-------	----	-------

ズームイン! 名寄の自然と暮らし

私は名寄市に行って、昔の人の暮らしと名寄の自然について調べました。名寄市では、東京とは違う「寒さ」を体験できました。その中でも私が興味をもったことについて、ズームインします。

まず名寄市は、旭川から北へ車で1時間30分の位置にあります。内陸部にあるため、夏と冬の気温差がはげしく、その温度差は60度にもなります。特に冬は厳しい寒さが続き、-30度を超えることもあります。

東京と名寄の気温について調べたところ、夏の最高気温はあまり東京と変わらないけど冬の最低気温は、-20度を超えて、東京都は全く違う気温になっていました。私達がいた3日間の東京と名寄の最低気温を比べると20度以上もの差があったことにおどろきました。私達は外でタオルを凍らせる実験をしました。すると、150回まわしたところでパリッとタオルが凍りました。改めて、名寄の厳しい寒さを実感しました。

次に昔の暮らしの道具について発表します。私達は、北国での生活について北国博物館に行って学び

ました。そこには、中に炭を入れて暖めるストーブがありました。今は、スイッチをおすだけで簡単に暖かくなりますが、昔は手間がかかっていた、大変だなと思いました。そして、今と同じ形の湯たんぽがありました。昔の人が考えた物が今でも使われていることにおどろきました。他にも、変わらないものとして、かんじきもありました。私達も今回初めて雪道でかんじきを使って歩きました。スノーブーツだけで歩く時より、安定していて歩きやすかったです。昔の人が、色々な工夫をして厳しい冬を過ごしていた事が分かりました。

私はこの3日間を通して、貴重な体験をすることができました。多くの方々が私達に協力してくださり、色々な事を学びました。本当にありがとうございました。

東京と名寄の最低気温比較表

日	東京 最高	東京 最低	名寄 最高	名寄 最低
26日	11.0	3.8	-0.6	-4.0
27日	18.8	5.5	-3.1	-14.4
28日	9.4	2.0	-6.5	-22.7

5班ズームイン!
名寄の自然と暮らし

5班ズームイン!
名寄の自然と暮らし

学校名	高井戸東小学校	氏名	高野 琢磨
-----	---------	----	-------

寒さにどんなふうに対応してきたか

ぼくは北海道に行くのが初めてだったので名寄に行けると決まったときはとてもうれしかったです。ぼくは、名寄に行って名寄の人たちのくらしの工夫に気付きました。一つ目は、二重のドアです。北海道などとても寒い地方ではドアが一つだけだと寒いし、ドアを開けたときに冷気が入りこんでしまうのでドアを二つにするそうです。そして、ぼくらが泊まっていたコテージも二重ドアでした。二つ目は、流雪構のことで。流雪構とは水の流れを利用して雪の塊を流れて排雪するためのものです。流雪構は道路上にあり、人の力で雪を運んで入れます。ぼくは、水の流れを使って雪を流すなんてよく考えたなと思いました。このような工夫のおかげで道路が雪でうもれないんだなと思いました。三つ目は、消火栓のことで。東京など雪のあまりふらない地域では消火栓は地中にある「地下式消火栓」ですが、北海道の消火栓は地上に何mか出ている「地上式消火栓」でした。なぜ地上に出ているか

というと、雪が積もると埋まっている消火栓は使えなくなってしまうのですが、消火栓が高いと雪に埋もれないのでちゃんと使えるようになっていきます。ぼくは、最初に地上に出ている消火栓を見たときに、「けっこう高いな」と思って見てました。

寒い地域では今紹介してきたようにたくさんの雪に対応して、工夫して暮らしているんだなと思います。すごいなあと感じました。

学校名	桃井第五小学校	氏名	安達 世真
-----	---------	----	-------

名寄大自然体験

ぼくが4年生の時、桃井第五小学校に名寄の「太陽望遠鏡」が来ました。この時から、北海道の名寄に興味をもつようになりました。五年の秋に学校で配られた手紙でこの名寄自然体験交流の事を知り、これをチャンスだと思い、応募しました。ぼくが名寄で調べたのは雪についてです。理由は、名寄は雪質日本一のパウダースノーをこえるシルキースノーだということ、前学習会で知り、どんな雪かを知りたかったからです。言葉だけでは表現できないかもしれないので、片栗粉と小麦粉持って行きました。

名寄に着いて三日目に雪の観察をし、実際に片栗粉と小麦粉をシルキースノーと比べました。ここで質問です。片栗粉と小麦粉のどちらが雪に似ていると思いますか？答えは片栗粉です。キュッキュッとなる感覚が片栗粉に似ていました。雪の降り方も観察しました。名寄の雪はサラサラと降り東京の昨年11月に降った雪は、ぼたん雪のようで、まとまって降ってきました。ここで質問です。なぜ、名寄の雪はサラサラと降るのでしょうか？答えは名寄は寒いから結晶のまま降るからです。では、気温が低だけでシルキースノーになるのでしょうか？答えはなりません。気温だけでなく、地形や季節風、湿度などもシルキースノーの条件に含まれています。調べてみると北海道にはシベリアからの冷たい季節風が吹きつけ、日本海で多くの水分を含み、北海道西岸に大雪を降らせます。その後多くの水分を落とし乾いた風が雪雲になり、天塩山地をこえるため、湿度が少ない、シルキースノーが名寄に降ることが分かりました。

ぼくはこの自然体験交流で多くの体験をすることができました。気候や文化の違いを体験し、名寄の人達と交流することで、違う生活、文化の人達とも仲良くなる事の大切さを学びました。一緒に過ごしていただいた方々に本当に感謝しています。ありがとうございました。

	東京	名寄
降り方	ジリジリ	サラサラ
冷たさ	同じ	同じ
色	ずいぶん暗い	真っ白
におい	臭い	片栗粉
ふんわり感	ふわふわ	ふわふわ
降り始め	ずいぶん暗い	ふわふわ
降り終わ	ずいぶん暗い	ふわふわ
結晶	全く見えない	ほろりと美しい結晶が見える

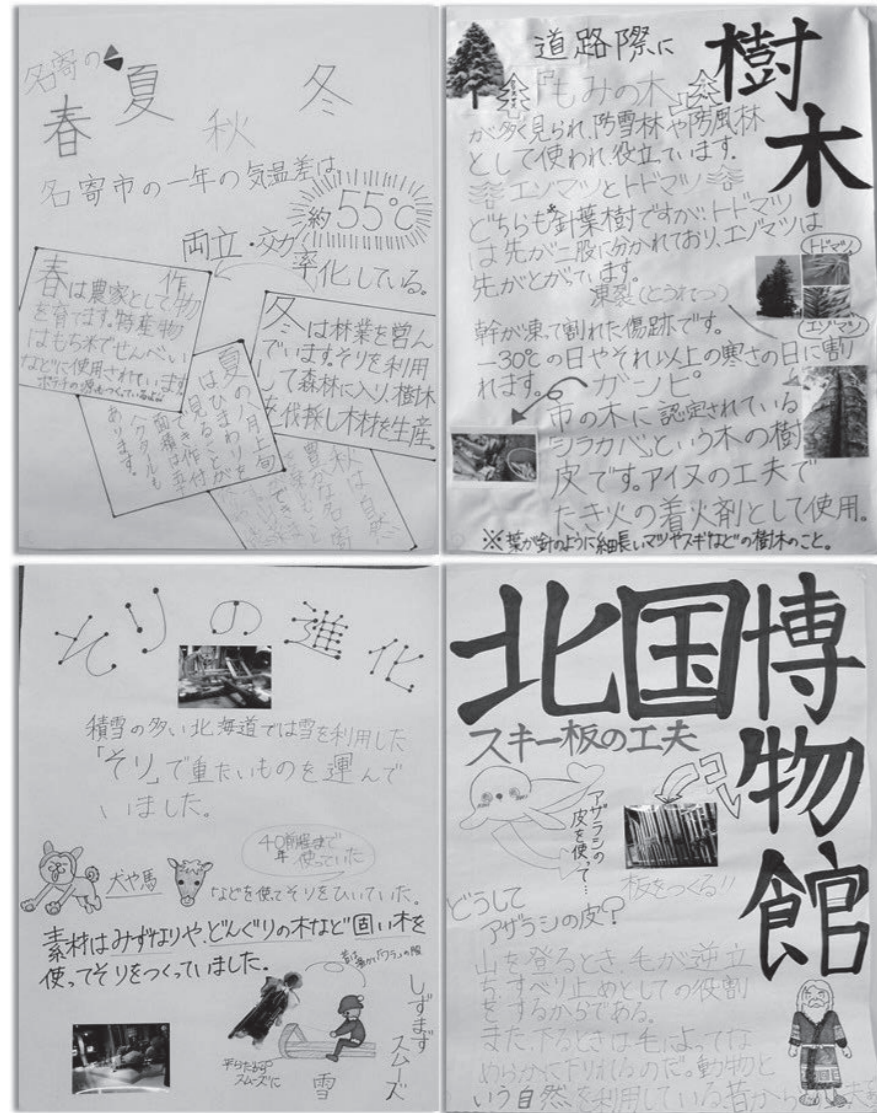
学校名	沓掛小学校	氏名	宮崎 祐希
-----	-------	----	-------

昔の人の知恵と工夫

私は自然体験交流で北海道の樹木や自然について調べました。主に道路際で木を見ることがありました。もみの木、シラカバ、エゾマツ、トドマツが多く見られました。もみの木は防風林や防雪林などとして役立っており、北海道の気候に合っています。次にシラカバという木の樹皮はアイヌという人が着火剤（ガンピといいます。）として使っていました。シラカバの樹皮は燃えやすく少しの力だけですぐ火がつかました。エゾマツとトドマツは針葉樹といわれる葉の先がとがっている裸子植物です。これらの違いは葉の先の部分です。トドマツは二股でエゾマツは割れていません。また、名寄の子たちと学んだスノーシュートレッキングではクイズ形式で木のことについて学びました。そこで「凍裂」といわれる木の現象を知りました。字のとおり木が凍って裂けてしまうことです。その現象は寒いところならではの、マイナス30度以下の日に起き、幹が真二つになってしまう。昆虫がすみかにもなるそうです。名寄の気候は一年間で、55度差あります。春夏秋冬がはっきりしています。春と冬は仕事を別々にして、効率よく仕事をしています。次に樹木や自然を学ぶことがあったのは北国博物館です。そこでは名寄の人々の昔からの工夫が残されており、実際に模形などの展示物も置いてあります。まず、ス

ノーシュートレッキングではいたスノーシューは昔はかんじきや、スキー板でした。昔の人の工夫で板にアザラシの皮をはっていました。アザラシの皮は登るときは毛が逆立ち、すべり止めとして役立ちます。下るときは毛によってなめらかに下れます。スキー板の原理を利用したそりという固い木でできた、重いものも簡単に運べて人も乗れるというものがあります。それは馬や犬にひかせていて、約40年程前まで使用されていました。

これらの工夫は先人たちが考えた工夫であり、じょじょに進歩させてきてくれました。今回の名寄自然体験交流を通して自然をうまく利用し、自然から学んで工夫してきたから、今の名寄市があるのだと思い、受けついで行くのはすばらしいことだと思いました。



学校名	杉並第二小学校	氏名	小川 なつみ
-----	---------	----	--------

一から学ぶ

私は名寄に行って自然の力を感じました。例えば、動物です。寒い気候に合わせた暮らし方、体をしていました。もう一つあげると、星です。名寄のあの澄んだ空気がなければ、あんなにきれいには見えなかったと思います。

東京でスキーウェアを試着したときは、「これを着れば、絶対に寒くないだろう。」と思いました。でもいざ行ってみると、カイロが何枚あってもたりないぐらいでした。気温はマイナス20度でしたが、先生は喜んでいただき、私もうれしかったです。

それは、私やみんなが名寄の自然を無意識のうちに、はだで感じていると実感できたと思います。その事を今また改めて考えると、幸せで貴重な体験ができたこと心から思います。

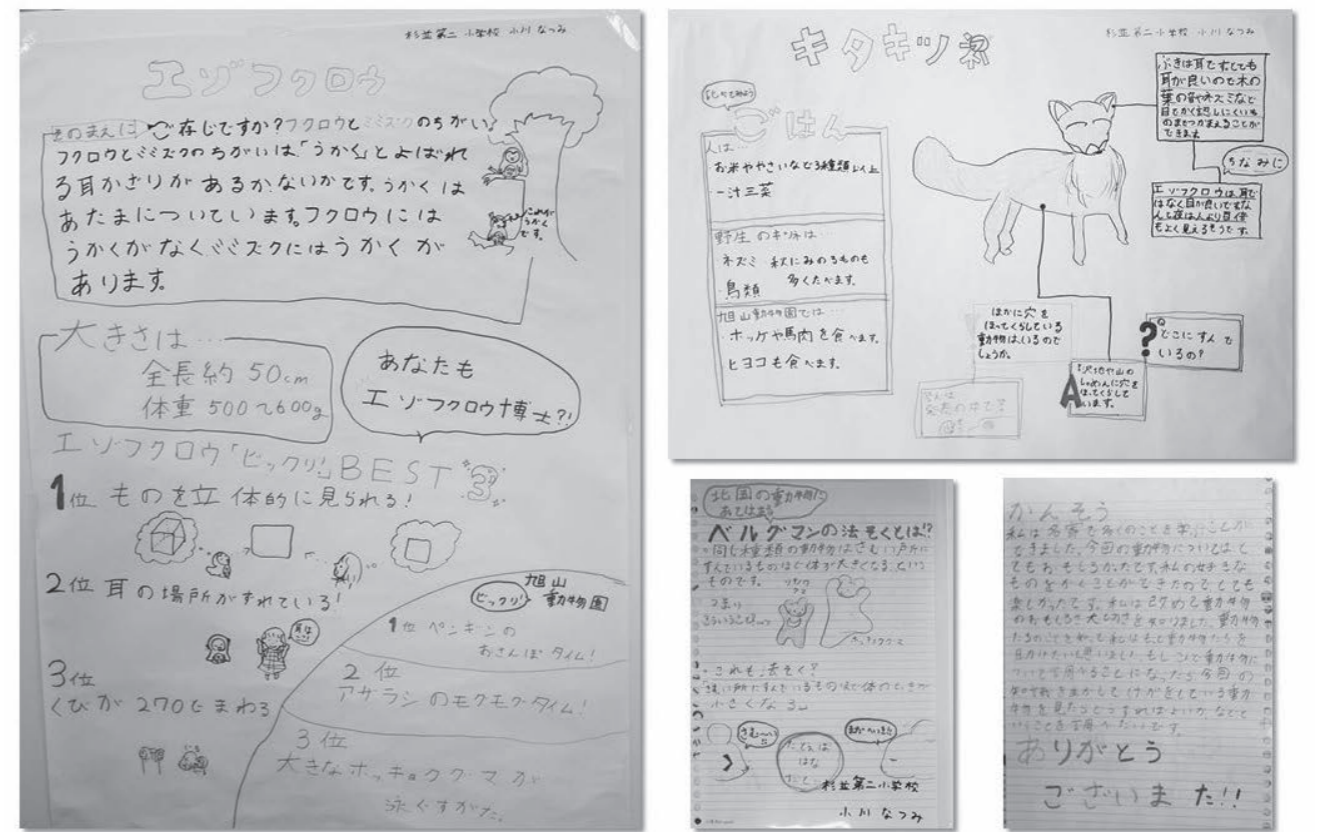
私はまた名寄で改めて生活の基本も学びました。自分の事は自分でやるということは、できているようで、実はとても難しいことでした。

例えば布団をしく時です。自分一人で簡単にできると思ったら、いざやってみるとシーツをしくのはとても難しいことでした。布団の上でやったり、外からやってみたりしましたがうまくできません。

そこで私は友達と協力しました。その子も実はシーツのしき方で困っていたのです。二人で両はしをもつことで、前よりも、ずっとやりやすくなり、うまくできました。

このことから簡単に見えても一人だけだとできないこともあるんだ、と気づきました。それと同時に今回は一人でできなかったけど友達と仲良くなることができました。自分ができることを努力していくことも大切ですが人と力を合わせてはじめて出来ることもあるのだと思いました。

このようにたくさんの事を考え、とても勉強になった二泊三日でした。



6班 名寄の自然に
ビクワするナヨ

6班 名寄の自然に
ビクワするナヨ

学校名	四宮小学校	氏名	田中 こみち
-----	-------	----	--------

北海道産の動物たち

スノーシュートレッキング、アイスクリーム作りも楽しかったのですが私が今回参加して一番学べたのは、旭山動物園です。

なぜなら、園内にある説明書きがおもしろかったからです。知らない動物でも特徴が絵で説明されていて良く分かりました。

そのことがきっかけで私は動物の特徴を調べることにしました。

—キタキツネ—

野生は巣穴を沢地や林内のしゃ面に横穴をほったりしてその穴で休む習性があります。エキノコックスという病気をばいはいします。体全体は赤褐色の毛でおおわれていて、腹部が白色です。また、尾も特徴的で赤褐色毛で先端が白色です。

—エゾタヌキ—

キツネと同じイヌ科の動物です。コミュニケーションのために一か所にふんをする「タメフン場をつくる習性があります。アライグマと間違いやすいですが見分け方は目の周りの黒いもよう、尾、ずんぐりとした体格です。

—エゾリス—

秋に大きい種子を冬の食物として地面、巣穴に埋めて貯蔵する習性があります。ほとんどが木の上で生活します。ふさふさした大きな尾が特徴です。

—アカゲラ—

木などをつつつく習性があります。この行動を「ドラミング」といいます。エサを食べるとき、舌がのびてエサを食べます。腹部は白く、頭の一部分が赤い。オスの後頭部は赤く、メスは頭頂全体が黒い。

—エゾフクロウ—

昼間はじっとしていることが多く、目立たないが、良く見ると木にとまっていることが分かります。仲間には目の上にピンと立った羽根を持つものがあります。これは耳のように見えるが、「羽角」と呼ばれる飾り羽の一種。この羽は昼間休むときにピンと立てて使います。

—感想—

私は北海道の動物と東京の動物の違いが、良く分かっていませんでした。

でも、北国博物館でお話を聞いているうちに、北海道の動物の方が体つきががっしりしていたり毛が生えかわったりするという違いがあると分かりました。

学校名	八成小学校	氏名	上野 結衣
-----	-------	----	-------

北海道名寄市の動植物

皆さんはヤドリギという植物を知っていますか？私は、北国博物館の人から初めて教わりました。ヤドリギは、果実の中の種が非情に粘着質なゼリーに包まれているため、果実を食べた鳥のフンは、その粘着力で木の上に張り付きます。そうして付いた木に寄生して成長するのです。実際に見ると、とても高い木の上にあり、一ヶ所に集まっていました。

また、名寄のように厳しい寒さの土地では、樹木に凍裂という現象が起こることも知りました。マイナス30度を超える寒さにより、木の幹が凍り、割れて出来る傷跡のことで。私が見た凍裂は、傷の深さがけっこう深く、指の第一関節ぐらまで入りました。

事前に、トドマツとエゾマツの見分け方を調べましたが、現地ではエゾマツしか見ることができませんでした。実物のエゾマツは、とてもゴツゴツしていて、他の木よりも色が濃く、思っていたよりも高く、よく目立っていました。

次に、動物についてです。まずは、ウサギについてです。ウサギは2種類のフンをします。一つは普通のフンですが、もう一つは盲腸フンといって、まだたくさんの栄養が残っているフンです。この盲腸フンはもう一度食べて栄養を吸収します。ウサギが2種類のフンをしているのもおどろきましたが、それよりも盲腸フンをもう一度食べるということが衝撃的でした。

指導員さんの説明を聞いたり、掲示物を読んでいると、知らなかった事を知れたり、見てみたいなど思えて、より興味がもてました。名寄では、学びながら楽しく動物や植物の事を知ることができ、いろいろな事が楽しく身に付きました。

また、植物と動物の他に、カーリングやタオル回しなどのミニ実験等、寒い地方でしかできない貴重な体験をしました。難しかった事から楽しかった事まで、全てが忘れられない体験になりました。



6班 名寄の自然に
ビックリするナヨ★

6班 名寄の自然に
ビックリするナヨ★

小学生名寄自然体験交流事業とマイナス 20℃に寄せて

杉並区立永福小学校 校長 岩崎 義宣

今改めて、大歓迎して下さった名寄市の皆様方に感謝申し上げます。私たちの三日間は、名寄市と杉並区の交流の長い流れの中に位置付けられます。私たちが、個人的には一期一会の思いで訪問したつもりでも、長い時間の流れの中の一つであったことを、帰京し振り返ってみて思います。

今期の名寄体験を締めくくるに当たり、自主的で自発的で好奇心旺盛で頭の回転が速い参加メンバー 25 名の活躍を記します。

25 名は、初対面の仲間と三日間を共に生活すると承知でエントリーし、多くの場合、同じ学校の人とは一緒にならず、まさに一人で参加しました。秋に初めて出会ったころはみな表情が硬く、一様に無口で、少なからず心配したほどでした。しかし、その初対面の仲間と折り合いを付けながら、断続的ながらも数ヶ月間を共に過ごしてきた人間関係調整力の高さは実に見事でした。まったく同様に初対面である名寄市の小学生との交流活動で最初はぎこちなかったけれど、徐々にペースをつかんだようで、短時間ながらあれこれと会話にまでなったものです。

また限られた時間の中で各自の実験課題に取り組んだ自律心にも感心しました。マイナス 20℃より寒い朝 4 時過ぎに起きて、自分の頭を濡らして振り回し、凍結実験に取り組んだあなたには敬意あるのみです。ふだんの学校生活ではできない経験だったでしょう。早朝 7 時の集合出発に余裕で間に合った 25 名は頼もしい限りでした。旭山動物園を遊覧観光でなく、素早くメモを取りスマホを使いこなして記録観察する姿に、でもペンギンの行進を楽しむことも忘れなかった姿に、北国博物館の前庭で雪合戦に興ずる姿に、初めてのカーリングに悪戦苦闘する姿に、感動すらしたものです。

私には、マイナス 20℃の世界と共にすてきな思い出となりました。

これらの活動の様子は 2 月の学習成果発表会で披露されました。最初の顔合わせの頃に考えていた研究テーマより研究内容が進化し具体性と感動を伴っているあたりが三日間の体験の豊かさを物語っているのだと再認識しました。

なお末筆ながら、杉並の参加児童 25 名のために体験活動を多様に用意して下さった名寄市役所と名寄市教育委員会の皆様、ありがとうございます。改めて心よりの感謝を申し上げます。再会の機会に恵まれますことを願っております。



12月28日(水)朝7時頃 スキー場にて

保護者の感想と引率の先生からのメッセージ

・日常ではできない体験!どれも思い出に残ったようです。(保護者)

・学校を超えた同世代の子どもが集まり、集団生活をするこも、相互に刺激を受けあい、人間として成長できたと思います。(保護者)

・大自然の中で「自信」を得られた経験は、これから歩む道で支えとなって行くのだと思います。(保護者)

・国内最大級の望遠鏡による天体観測、地元の子どもたちとの交流、スノーシュートレッキングやカーリング体験、旭山動物園でのペンギンの行進など、厳しい寒さと豊かなふれあいを経験し、名寄ならではの特別な体験ができました。これから、新しい時代を担うリーダーとして活躍することを願っています。(引率教員)

・東京での寒さが比ではないことを3日間の滞在で感じる事ができたようです。東京に帰ってから薄着になり、驚きました。(保護者)

・行ってみなければわからない体験がそこがありました。厳冬の名寄の自然、澄み渡る夜空の星、25人の仲間とともに生活する3日間。杉並との比較を通して知識を深め、自然の豊かさや厳しさを実感し、子供達が大きく成長する様子を直に見ることができました。これからの子供達の成長に期待します。(引率教員)

・五感で学べ、身についたことは、東京に戻ってから名寄と比較する話が増えたことからわかります。様々な体験が本当に充実したものであったとこの事業に感謝しております。(保護者)

・マイナス 20℃の気温を体感できたこと、名寄の友達と雪遊びやアイスクリーム作りをしたことなど、どれも貴重な体験でした。違う学校の友達と協力して、事前学習を進め、大きなステージで発表することもできました。みなさんの秘めた力に驚かされました。みなさんがこの経験を生かして活躍する日を楽しみにしています。(引率教員)

・行く前は、不便なことやマイナスな点を探ることが多かったのですが、名寄に行ってきた後はよいところ、素晴らしいところをたくさん見つけられた様子です。一人っ子の我が子にとって宿泊を伴う交流は貴重な体験でした。(保護者)

・マイナス 20℃の世界での名寄の友達とのあたたかい交流、たくさんの経験を自分の心の財産として、これからの生活に生かしてください。(引率教員)

・初めての北海道、初めての飛行機、違う学校の友達が初めてできたことなど、すべてが新鮮で、一生の思い出になる体験ができました。今回の体験が自信につながり、どんなことにも積極的に取り組んでいけるようになればと思います。(保護者)

お世話になった方々

道北自然観察指導員会のみなさん
 NPO法人なよろ観光まちづくり協会のみなさん
 名寄カーリング協会のみなさん
 名寄市役所の職員のみなさん
 そして
 名寄市のみなさん

本当にありがとうございました

平成28年度 名寄市と杉並区の交流事業を下記のとおり行いました。

アスパラまつり	杉並区役所で名寄市特産のグリーンアスパラガス等の販売と名寄市風景写真の展示をしました。	平成28年 6月8日～10日
白樺まつり	高円寺阿波おどり親善訪問おどり団34名と区代表団6名が名寄市を訪問し、まつり会場で踊りを披露しました。	平成28年 6月17日～19日
第60回東京高円寺阿波おどり大会	名寄市代表団・おどり団31名をお招きし、交流自治体連として踊りを披露していただきました。	平成28年 8月27日～28日
とうもろこしまつり	杉並区役所でとうもろこし(ゴールドラッシュ)を販売しました。	平成28年 8月31日～9月2日
交流自治体中学生親善野球大会	杉並区において、名寄市(選手12名)・杉並区・台湾台北市のほか3交流自治体チームによる親善野球大会を開催しました。	平成28年 10月8日～10日
秋の観光物産展	阿佐ヶ谷JAZZストリートと同時開催で、じゃがいもの詰め放題など各種野菜・トマトジュースの試飲販売等を実施しました。	平成28年 10月21日～22日
すぎなみフェスタ	交流自治体合同物産展に出店し、名寄煮込みジンギスカンのほか、シューマイやいかめし等を販売しました。	平成28年 11月5日～6日
移住説明会	杉並区民に対する名寄市への移住説明会を開催。	平成28年 12月18日
なよろ雪質日本一フェスティバル	杉並区代表団6名が名寄市を訪問。「おらの雪像見てくれコンクール」にて区長賞を表彰	平成29年 2月11日～12日

平成28年度 小学生名寄自然体験交流事業報告書 (第5回)

平成29年3月発行
 編集・発行 杉並区教育委員会事務局生涯学習推進課
 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1
 ☎03-3312-2111(代表)
 ☆杉並区のホームページでご覧になれます。<http://www.city.suginami.tokyo.jp>

登録印刷物番号

28-0117

北海道名寄市のご案内

北海道の北に位置する名寄市は、天塩川と名寄川が豊かな恵みをもたらし、もち米やアスパラガス等の収穫量を誇る、農業を基幹産業とする都市です。夏と冬の寒暖差が最大で60℃にもなり、日本最大級の望遠鏡を持つ市立天文台「きたすばる」や、雪質日本一ともいわれるスキー場などがあります。

杉並区と名寄市の交流は、平成元年7月に旧風連町と交流自治体協定を結んだことに始まります。その後区民を中心とした幅広い交流が続いてきましたが、平成18年3月には旧風連町と旧名寄市とが合併し、新しい名寄市としてスタートを切りました。杉並区と新名寄市は、これまで築いてきた両自治体の関係をさらに発展させていくため、平成18年6月に協定を再締結し、より一層の交流を深めています。



名寄市のデータ

面積 535.23 km²
 (杉並区34.06 km²)
 人口 28,226人
 世帯数 14,249世帯
 (平成29年1月末現在)



北国の春を彩る芝桜



夏のひまわり畑



秋のコスモス畑



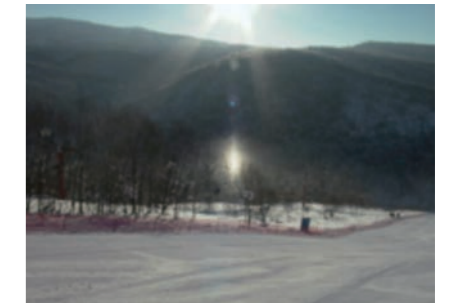
なよろ市立天文台「きたすばる」



名寄市
観光キャラクター
「なよろう」

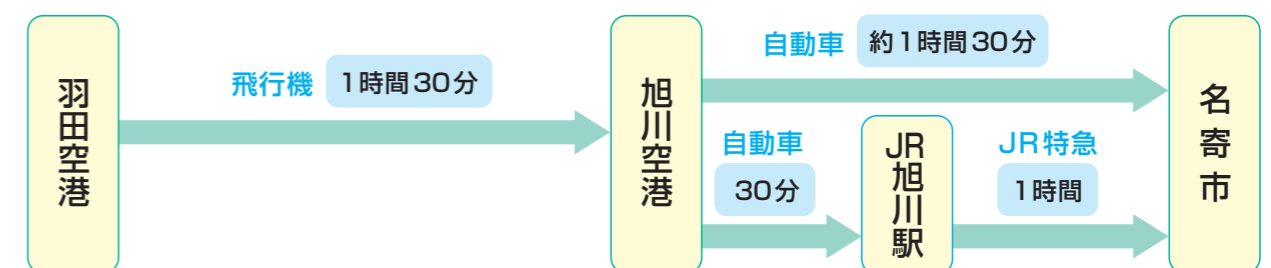


雪質日本一!ピヤシリスキー場



神秘的なサンピラー現象

名寄市へのアクセス



子どもたちの夢を育てる 『杉並区次世代育成基金』を応援してください

『杉並区次世代育成基金』は、大きな可能性を持った子どもたちが、様々な体験・交流を経て、夢を描き、その夢に向かって健やかに成長していけるよう、異なる地域・環境の自然や文化の体験学習、スポーツ交流などへの参加を支援するために創設した区独自の仕組みで、名寄自然体験交流も本基金を活用して実施しています。

区はこれまでに、こうした基金設立の趣旨にご賛同いただいた皆さんからの寄附をいただき、地域社会全体で本基金を大きく育てていけるよう取り組んでおり、今年度も多くの方々からのご寄附が集まっています。これからも、より多くの子どもたちが、このたびの名寄自然体験交流をはじめとする基金活用事業に参加・体験する機会を得られるよう、次世代育成基金に対する応援寄附へのご協力をよろしくお願いいたします。

〈平成28年度のその他の基金活用事業〉

国内子ども交流会 名寄市 7/28～31, 8/5～8 東吾妻町 8/17～20	小学4～6年生50名が、杉並子ども親善大使として、北海道名寄市、群馬県東吾妻町の子どもたちとの相互交流を行いました。
中学生小笠原自然体験交流 3/25～31	中学生30名が、世界自然遺産の小笠原の自然環境や歴史を学び、現地の人たちとの交流を行いました。
交流自治体中学生親善野球大会 10/8～10(西武プリンスドーム、 上井草スポーツセンター)	区内中学校の軟式野球部などから選抜された中学生で編成した杉並区代表チームが、国内の交流自治体の中学生代表チームとともに、台湾台北市の中学生代表チームと親善野球大会を行い、野球を通じて交流し、国際理解を深めました。
中学生海外留学事業 8/17～29	中学生25名が、約2週間にわたってオーストラリア・ウィロビー市でホームステイをしながら、海外の生活・文化を学び、現地の同世代の学生と交流し、国際理解を深めました。
トップアスリート育成・支援 7/30, 10/30, 2/12	小・中学生を対象に、年3回、対象学年や種目・プログラム構成を変更しながら、オリンピック選手とふれあったり、パラリンピック種目の体験などを行いました。
Cedar Youth International Project in Germany (民間活用事業) 事前学習 9月～ ドイツ滞在 3/18～28	高校生をドイツに派遣し、日独の若者同士の国際交流を行いました。事前学習や、研修旅行の中で、ドイツを多面的に理解し、そのうえで日本の将来像について考える機会としました。
サイエンスホッパーズ 科学実験教室 (民間活用事業) 4/23～3/1	小中高生を対象に、学校教育ではできない、身近な科学を体験する科学実験教室。楽しみながら、理科、科学、自然への興味を促進しました。
杉並・テキサス交流プロジェクト (民間活用事業) 6/1～2/26	小学生が、テキサスの小学生と、手紙やビデオレターを交換し、お互いの文化を伝えあうことで、価値観や文化の違いを体感しました。



〔次世代育成基金への寄附申出・問い合わせ先〕

杉並区保健福祉部児童青少年課青少年係

〒167-0051 杉並区荻窪1-56-3 ゆう杉並内

☎ 3393-4760 / FAX 3393-4714